NANGOKUNANGOKUNANGOKU

特定非営利活動法人

VOL.23

南国暮らしの会

2004 年 新 年 号

平成 16 年 1 月 24 日

NPO 法人　南国暮らしの会

NANGOKUNANGOKUNANGOKU

目　次

目次			1
新年のご挨拶	No.　3	池田　徳三郎	2
情報交換会講演より			
東カリブ海を豪華客船で初のクルージング	No.　24	酒匂　愛子	3
海外で犯罪に遭わないために・なぜ日本人は狙われるか	No.　33	戸田　智弘	5
医療機関に受診しなければいけない症状について	No. 586	磯崎　興志	6
ペナンに１ヶ月滞在して	No. 588	吉田　孝輝・美奈子	7
快適！ペナン一人暮らし！！	No. 639	藤原　迪子	12
ブルガリアに住んでみて	No.　94	高橋　昭	16
チェンマイ滞在記	No. 487	横井　保夫	22
ダバオよいとこ・一度はおいで	No. 467	渡邊　英勝	27
カーニバル・グローリー号で行く東カリブ海クルーズ日記	No. 625	工藤　俊一	30
中国雲南、大里・麗江の旅	No. 498	氏家　孝	32
東南アジア諸国見聞録その４(最終回)カンボジアーⅡ	No.　40	平澤　信	37
マニラのマンション購入余話	No. 291	福田　修	41
オーストラリアに３年余住んで	No. 570	山田　善一	43
スローライフ in ロタ５年	No. 398	山本　隆	47
「認定ＮＰＯ法人」と寄付金	No.　3	池田　徳三郎	50
支部・部会伝達版			54
平成１６年度継続会員申し込み受付			58

新年のご挨拶

理事長 池田 徳三郎

初春を寿ぎ、会員の皆様の平素の力強いご協力と暖かい厚きご支援を深謝し、謹んで新年のご挨拶を申しあげます。

戦争・内乱・テロが早期に収まり、適正な世界人口のなかで宗教を超え、平和で楽しい理想の世界が実現できればと夢見るところです。

南の国で平穏で楽しい人生を生きる共通の夢を持つ仲間がそれぞれの組織的活動を通じ、今年も大きく前進することが期待されます。

会の組織、運営は皆様のご理解とご協力により、ほぼ整備されました。しかし組織を動かすのは人です。重ねてご協力をお願いします。

1．支部の飛躍的組織活動に期待

会の活動は個人の力によることは大切ですが更に組織的に活動することもより大切です。各支部会員におかれましては新しい発想で支部長・役員様を軸に新機軸を開発され、各支部が支部の特性と自主性を遺憾なく発揮され、より大きく様替わりし、飛躍することを期待します。

支部会員が地域の住民と接し、当会の趣旨、南の国々の良いところ、そうでないところをよく理解して頂き、共に仲良くしていくこと、仲良く暮らすことの大切さを周知することが出来れば、素晴しいことでしょう。

また支部会員相互間にきめ細かい相互信頼と懇親の輪が、支部の各種のイベントを通じ数多く接することにより、さらに深まり、広がることを期待します。

2．法人設立5周年の節目の年

今年は当会がＮＰＯ法人の認証を受け、設立して5周年を迎える節目の年に当ります。「記念行事委員会」の設立と準備も理事会では議題になりました。この節目の年に会としても更なる内容の充実と「会員相互の親密の輪」（地域、趣味、その他共通の目的を持つ同好の士の集い）を強めることが望まれます。

1）趣味の会

5周年の節目の年に「地域ごとにゴルフ、テニス、各種のダンス、太極拳、合気道、釣りの会、俳句・短歌・囲碁の会、コンサートその他の観劇の会、そばの会、うまいもの会等」が従前に加えて生まれ参加し、その触れ合いを通じ個々の会員相互の理解と懇親を深め、仲良くなることが大切でしょう。「仲良し会」は当会の原点の1つです。どなたでも有志で、お声を掛け、立ち上げて頂きたいものです。

2）連絡網の作成

都道府県単位、その他の会員連絡網（東海支部のように）が出来、PCに慣れない会員に呼びかけ、声を掛け合い、参加と楽しい親睦の輪が広がることが期待されます。英知と総力を挙げてご協力をお願い致します。

3．認定ＮＰＯ法人

ＮＰＯ法人は寄付金募集を実施していることが「認定ＮＰＯ」の前提であること、募金活動を実施してない法人は「認定ＮＰＯ」となる資格がないことが判りました。（昨年10月、国税庁へ）

当会では積極的に寄付金の募集活動を最近、特にしておりません。しかし今後、不特定多数の人々から小額の寄付金募集活動をする道を開くことも欠かせません。委員会では「NPO法人設立５周年に関連し寄付金募集」の意見が出ました。今後、関係内規の整備（目的、使途等）と具体的方法は新年の新しい大きな課題です。前向きの具体的ご意見の提出をお待ちします。

4．会員一人一役を

会員1人1人が自らの会に参加し、積極的に一役を果す自覚を表顕して頂き、本部、支部活動の何らかの一役を是非とも担って頂きたいと切望します。

今年の総会時は２年に１回の役員の改選の年でありますが、今まで献身的にご活躍くださいました役員の方々に是非継続して、その役をお引き受け願いたいと希望しますが、会員の是非の御挙手も期待しております。

東カリブ海を豪華客船で初のクルージング

《女性の目から見てー情報交換会講演要旨そ１》

埼玉県在住 会員(家族)No.24 酒匂 愛子

クルージングを一度は体験したいと以前から思っていました。が、費用の関係でとても無理・・・と諦めていました。今回ワールドステイクラブ（WSC）の相談役：森実様の計らいにて、格安の値段で参加できる機会に恵まれ、夢のような数日間を過ごす事が出来ました。

期間は、平成15年11月13日から11月24日までの12日間で、船上７泊、ホテル３泊、飛行機２泊の旅で、日本からの参加者はWSC、南の会関係者（29名）合計で50名でした。

道程は、成田⇒シカゴ経由オーランド⇒（フロリダ半島中央部）まで、国際線約13時間半、国内線２時間半の道程で、飛行機の移動はそれ程苦痛に感じませんでした。時差は16時間です。

オーランド近郊は、娯楽設備の集結都市（デズニーワールド、デズニーシー、ユニバーサルスタジオ、宇宙センター等）で乗船待機時には夫々見学に出向き、私共はユニバーサルスタジオに出向きました。サンフランシスコの巨大地震（震度８で実物大の自動車が落下して来て破損する等）をトロッコ電車内で体験、大竜巻、タイムマシンによる未来を垣間見る等々の恐怖と娯楽の醍醐味を体験しました。

宇宙センター見学ではロケット、コントロールセンターなど現物を目にし、また広大な敷地内には鰐が数十頭生息しているとの事、何と言うおおらかな事でしょう。

乗船、昼食を乗船後頂く事になっていたのに、宇宙センターでの手続きやバス待ち等で手間取り、また乗船手続きで凄い時間が掛かり昼食抜きになる。技術の先端を走っている米国が、自動改札機（故障も結構する）などに夫々人が付いていて、その人々が手渡す行為が兎に角ノンビリ。この人々は雇用対策なの？？？、時間に対するおおらかな事は、日本人の私には理解出来ません。

ユニバーサルスタジオ、宇宙センター、この乗船手続き等々待つ試練を体験する為にこの国に来たのではないか、いい加減にしてくれーと叫びたくなりました。広大な土地に住んでいる国民性か、この国の人々は愚痴も言わずに平然と待っている。この人々の態度を反面羨ましいと感じました。

豪華客船（カーニバル・グローリー号）は、イタリアで約六百億円で建造され、内装は日本の金閣寺、銀閣寺等をイメージし設計され、化粧室には日本の陶版画が飾られていました。日本一の客船「飛鳥」の約４倍の11万屯と言う大きさで、乗客約三千人（殆どが米国人）に対し、訓練された乗務員は千五百人で50数ヶ国の出身者が従事しています。残念ながら日本人は皆無でした。船内が余りにも広く、船内生活を１週間しても何処に何があるのか分からず終いで下船しました。

食べる事については、一日中食べていても無料でお好みの物が頂ける。味付けは、日本人には今一つと言う感じですが、メインダイニングでのフルコースは毎日メニュー（日本語）が替わり、２時間以内ならばコースメニューから複数の料理を頂ける。何と贅沢な事でしょう。

中年の外国人で小錦関クラスの乗客が何と多い事、食文化のせいか自分の体を支えきれず車椅子や杖を頼りにしている。ある人はキャビンの入口や化粧室への出入りを大変心配していました。

アルコール類はウエルカムパーティー以外は有料です。

娯楽施設は至る所にあり、自分から飛び込めばエンターテーナーになれ大いに楽しめます。

フォーマルとカジュアルについて、このカーニバル・クルーズ・ライン社は堅苦しさを払拭し、どなたでも楽しめるカジュアルな船旅を提供しています。しかし西洋のマナーは、午後５時以降はフォーマルな雰囲気でディナーを楽しむという風習があります。本船のフォーマルナイトの二晩は30%程度の方がフォーマルウェアーで楽しんでいます。今回参加してみて男性はダークスーツで、女性はイブニングドレスで無くても、出来るだけお洒落はした方が良いので

はと思いました。

ランドリーサービス(有料)の乾燥機は洗濯物の仕上がりが素晴らしく、夫がその洗濯物を見て、現物を見たいと言うので次回の洗濯時に同行し(日本の2ヶ所の病院で使った乾燥機は皺くちゃで仕上がりに格段の相違があるとの事。)乾燥機内で洗濯物が羽根のようにフワーと回転しています。Yシャツの襟以外はアイロン不要です。次回はそれ程服類は持参しないで良いと感じました。特にこの乾燥機は持ち帰りたい代物でした。(日本でもこの様な乾燥機が開発されると、憂鬱な梅雨時も快適に過ごせるだろうと強く感じました。)

船酔い、乗船3日目頃前線の通過で大西洋の海が少し荒れ、この大型船でも揺れを感じ、仲間の半数が夕食をパスする事態になりました。夫など一部の人々は酒と船旅のムードに酔い楽しんでいました。しかし復路でも白波が立ち船も揺れましたが、皆さん慣れたのか元気に羽ばたいていました。

医務室について、セントトーマス島の展望台で足を挫き夕食時激痛に襲われ、医務室のお世話になる事態が生じました。しかし素敵なホームドクターの様な対応と処方よろしく(患部を氷で5分ごとに3回冷やし、後は痛み止めを服用し患部を高くして就寝)、翌朝は腫れも引き痛みも和らいだので一人で歩行する事が出来ました。医療に関しても心配する事は無いようです。

残念に思っている事は、帰路アラスカ上空を夜通過するので、オーロラが観られるではと期待していましたが、そこまでは神様もボーナスを与えてくれませんでした。

ボーナスと言うと今回の旅で、UAのマイレージがキャンペーン中により、UCカードのマイレージプラスの取得額1万円で、タイ又はシンガポールに無料で往復出来ると夫が話しています。

兎に角興味のある方は西洋人の遊び心(ショッピングモールの人出、乗船客の米国人の活力)一度は体験して欲しいです。私は出来れば年1回位はこの様な船旅を楽しみたいと思います。

この度はWSCの森実様、船会社の清水様及び同行して下さいました会員の皆様方のお陰で、存分な語らいや楽しい旅が出来ました。心よりお礼申し上げます。

何時の日かまたグローリー号でお会い出来るのを楽しみにしております。

支部・部会伝達版

総務(事務局)担当より

担当理事:宮崎哲郎/菊地功/高澤弘晃

1．今年10月以降の主な動きは以下の通りです。

10月08日:AM支部会計委員会(5名)
　PM企画委員会(5名)

10月21日:AM東京国税局にて認定NPO調査(2名)
　PM法務局豊島出張所・東京都庁にて各種手続き(3名)

10月24日:特許庁に当会ロゴマークを商標として出願(2名)

11月01日:第4回理事会(10名)

12月14日:第5回理事会(11名):終了後全員で忘年サロン会(46名)に参加しました。

2. ミニ情報交換会関係

11月09日、ダバオから一時帰国されたNo. 341平野雅一さんを囲んで新高輪プリンスホテルの会議室でミニ情報交換会を行ないました。今回は急遽決まったので小さな部屋しか取れませんでしたが、それでも12名の方にお集まりいただき、ダバオ日本人会の活動状況(今年が日本移民100周年に当る)や当地にロングステイされている会員諸氏のご活躍の状況など活発なお話が披露されました。その後場所を変え人数も増えて(15名)、にぎやかに懇親会をとり行いました。平野さん、一時帰国の忙しい中、時間を割いていただきましてどうも有り難う御座いました。

海外で犯罪に遭わないために・なぜ日本人は狙われるか

《情報交換会講演要旨その２》

東京都在住 会員No. 33 戸田 智弘

2000年１月から12月の間に、海外で何らかのトラブルに巻き込まれ、日本大使館や総領事館に駆け込んだ日本人は１万7091人（「海外邦人援護統計」）に達しています。同年、海外へ出かけた日本人は、1781万8590人（「法務省出入国統計」）。この二つの数字から分かるのは、海外に出かけた日本人の1000人に１人ぐらいがトラブルに巻き込まれているということです。

しかし、1000人に１人という数字は何か少なすぎる気がします。

考えられる一つの理由は、犯罪にあったすべての日本人が日本大使館や総領事館に駆け込むわけではないということ、もう一つの理由は、不動産、異性関係、ビジネスなどに絡んだトラブルも大使館や領事館に届けられるケースは少ないことです。

こう考えると、海外でトラブルに巻き込まれる日本人の数は、実際にはこの10倍以上に達するではないでしょうか。実際、これを裏付けるような調査結果が発表されています。

外務省は2001年２月９日から12日にかけて、全国の20歳以上の男女2000人を対象に「海外安全に関する意識調査」を実施しました。

回答者のうち海外に行ったことのある人は約48%、この中の12%の人が「海外滞在中に事故やトラブルに巻き込まれたことがある」と答えています。つまり、海外旅行または海外滞在経験者のうちの100人に12人が過去に何らかのトラブルに巻き込まれた経験があるのです。

犯罪を回避する二つのポイント

では、犯罪に巻き込まれないようにするには、どうしたらいいでしょうか？　二つのポイントがあります。

一つは、海外でどのようなトラブルが発生しているのかを知ることです。

拙著『狙われる日本人－これが海外犯罪の手口だ』（ＮＨＫ出版の生活人文庫）より、キーワードを抜き書きしてみますと――

偽従業員、ケチャップ強盗、アイスクリーム強盗、切り裂き強盗、睡眠薬強盗、昏睡暴行事件、ビュッフェ方式の朝食―置き引き、ターンテーブルでの油断、道聞きスリ、親切強盗、三日がかりの空き巣、カードの強奪、マルセイユの罠、両替の罠、セイフティ・ボックスの罠、オウムおじさん、鳩おじさん、寄付の強要、いかさま賭博、柔道スリ、子供強盗団、子連れスリ、警察官によるたかり、偽警察官、宝石詐欺、ブランド品の買い付け、山下財宝、マルコス資金、ゴルフ場会員権商法、日本人価格、メイドのよる空き巣の手引き、メイドの無断電話、畜産業に手を出すな、昏睡暴行＋結婚詐欺事件、寸借詐欺、催行不能のツアー、妻を殴る日本人、つかませ麻薬、メルボルン事件、首締め強盗、落とし物詐欺、Ｘ線検査機、横断歩道スリ、エスカレーター・スリ。

キーワードを聞いただけで犯罪の手口がイメージできたでしょうか？　イメージでれば問題ありません。イメージできない人は書籍やＨＰなどで犯罪の手口をしっかりと頭の中に入れておいてください。

さて、二つ目のポイントは、日本人の国民性を理解しておくこと。

概して日本人は、現金を持ち歩くのが好き、無防備である、他人を信じやすい、他人に親切である、ＮＯと言えない、「日本語を教えて」と言われると喜んで教える、警察官を信用しやすい、契約意識に乏しい、持ち家が好き――というような特徴を持っています。こういう特徴は犯罪者に取っては非常に好都合です。海外では日本人らしくなく振る舞うことも必要かもしれません。

話をまとめますと、あらかじめ犯罪者の行動パターンを勉強し、同時に日本人の行動基準を知っておけば、トラブルに巻き込まれる確率は下がるはずです。ではよい旅を！

医療機関に受診しなければいけない症状について

《情報交換会講演要旨その３》

神奈川県在住　会員No.586 磯崎　興志

一般論として循環器－脳、心臓病の方が消化器病より緊急性が高い。高血圧症（最低血圧が高い、長い期間10年以上、現在では血圧は症状がなければ下がるほど後のattack-eventは少ない－降圧剤は３日切れると効果はない）心室性不整脈、狭心症、糖尿病があると悪くなり易い。南国暮らし会員は長期滞在、地方都市へ向かいつつあり降圧剤などは１月以上余分に持参を

①麻痺症状　よだれが垂れる、手足が利かない、視力が急に悪くなる

②失神発作　（不整脈、アルコール、貧血、低血糖、酸素不足－慢性気管支炎、喘息）

③強い頭痛　痛み止めが効果ないほどの、枕元を人が通り過ぎただけで痛む。若い頃からある　婦人の偏頭痛は除く

④朝方の狭心痛　息苦しい胸痛　狭心症から心筋梗塞、胸部大動脈は破裂へ心筋梗塞について

⑤続いている発熱　３日目　発熱＝関節痛＝食欲不振＝寒気は当然　咳、咽頭痛、鼻水など風邪の随伴症状を伴わない発熱　平熱　2℃以上の時ハテナと考える。

考えられる具体的病名

発熱＋黄色～緑色　痰→肺炎　肺炎一般について聴診器では50%の診断率　特に老人では発熱なく食欲不振のみの肺炎あり。

発熱＋腰痛→急性腎盂炎、尿路感染症－２個のコップに水道水と尿を入れ混濁を見比べる

女性に多い 寒気が強い 高熱 39度以上

単純な膀胱炎のみでは発熱ない。

発熱＋腹痛→胆のう炎　胆石について　黄疸～胆嚢手術方法の進歩について　急性膵炎－水に浮く便、腹痛

発熱＋首、わきの下のリンパ腺が腫れる　声がかすれる（１ヶ月以上）

肺がん、乳がん、悪性リンパ腫、咽頭がん

⑥３日目の下痢、または吐き気を伴う便秘　赤い下痢、黒い下痢－脱水　赤痢、出血－腸閉塞

⑦紅茶のように赤くなる尿　急性肝炎（東南アジアは日本の２から４倍は多い－Ａ型－食べ物で伝染）、黄疸の初期 当然強い　食欲不振

⑧血便　痔と間違い易い 赤いとは限らない　胃－12指腸潰瘍　ヘモグロビン 濃度７程度になると危ない　大腸疾患

⑨眠れないほどの腹痛　胆石、胆のう炎　膵炎　大腸疾患、腸閉塞

⑩尿閉　前立腺肥大 60歳以上の男性は全員ある。簡単に診断、治療できるので主治医に相談。

【磯崎様の写真撮影に不備があり掲載出来ませんでした。お詫びいたします。】

支部・部会伝達版

必携編集委員会より

・会員名刺標準フォームについて
　現在標準フォームが有るようで無い為にミス印刷が多く措置に困惑しています。今後は本標準フォームに準じて、本人提出の原稿で作製します。皆さん方のご協力をお願い致します。

・その他、必携に綴じ込む資料は項目頁を振り、パンチングされています。必携にファイルして有効にご利用下さい。

・今回は目次を省略します。（夏季号に添付にて発行します。それ迄は手書きにてご利用ください）

会員担当より

担当理事：鈴木剛/酒匂景輝/龍野宏

・会員動向：平成15年12月31日現在：467名

・内訳：継続会員：321名 新入会員146名

・住所変更届：会員の住所変更届けが未だに徹底されず、困っております。最低年４回会報を発送しておりますが、毎回返品があります。転居前に必ず届けて下さい。

・会員追加名簿：平成15年10月22日以降の入会者及び復帰者の名簿です。配布済み名簿に追加して下さい。

ペナンに１ヶ月滞在して

大阪市在住　会員No.588　吉田　孝輝・美奈子

はじめに

2003年7月16日から8月14日まで私達夫婦と家内の友人の３人でペナンに行って来ました。１月に下見をしましたが１ヶ月のロングステイは初めての経験でした。

ペナンでは大勢の方々にお世話になり楽しく過ごす事が出来ました。以下に私達が経験した事を書きたいと思います。

ホテル

ホテルはトロピカル　リゾート　ライフスタイル（株）を通じて「コップトーンオーキッドホテル」のジュニアースイートを２部屋を予約、ジョイントして３人で使用しました。日本人スタッフ（松井さん）もいて便利でした。

12Fの部屋のベランダからは海が良く見え、７時過ぎの日の出と共に１日が始まります。雨季で適当に雨が降り過ごし易かったです。朝食は８時過ぎからプールサイドで摂りました。猿の集団が移動するのを何度も見ました。

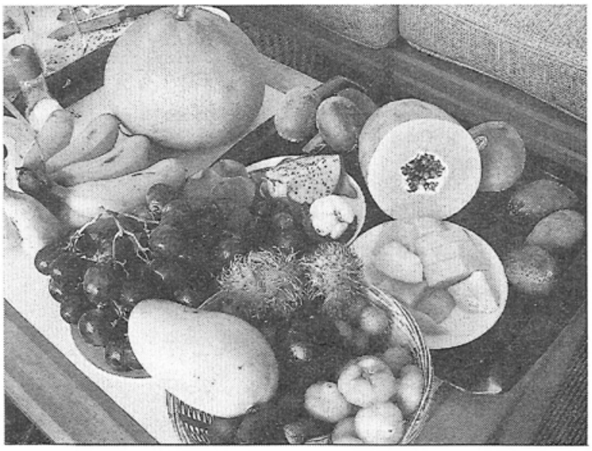
ホテルには日本人、欧州の人など大勢ステイしていて朝食時に情報交換が出来ました。竹岡夫妻（倉敷）小野さん（横浜）は住居を決めに来ておられました。もう現在はペナンにお住まいのようです。軽井沢と言われる「キャメロン・ハイランド」に是非行きたいと思って聞くとゴルフは良いがかなり寒く厚手の上着が必要で、道も日光のいろは坂以上の急カーブで舗装されていない山道を２時間も登ると聞いて今回は中止しました。ランカウイ行きのジェットフェリーは相当揺れると聞き船酔いの薬を買って行くことにしました。

朝食のバイキングメニューに果物がパインとスイカだけで寂しいと思っていたら、パパイヤの出ているステイの人がいました。松井さんに聞くと頼めば良いと分かり次の日からパパイヤを頼む事にしました。日本人のステイが多いのでホテルのスタッフも日本語の勉強をしています。パパイヤを頼みながら日本語を教えたりしました。皆な非常に熱心でした。ホテルのスタッフとも少しづつ顔なじみになり話す機会が増えて来ました。

コップトーンオーキッドホテル

ショッピング

買い物は行きはホテルのシャトルバスを帰りは殆どバスを利用しました。ホテルの近くのタンジョン・ブンガの市場にも朝の散歩を兼ねて何度も行きました。通りを少し中に入ると民家の庭にニワトリが放し飼いにしてあり、のどかな風景に出会いました。市場では果物と野菜を買いました。写真は食べたフルーツの一部ですがどれも美味しくて朝昼晩お腹一杯食べて満足でした。大きなパパイヤ２キロ位で90円、マンゴが１個50円位、ポメローが200円、ほうれん草50円。オクラ、豆腐も買って食べました。太いきゅうりを持参の味噌を付けて食べましたが大変美味しかったです。



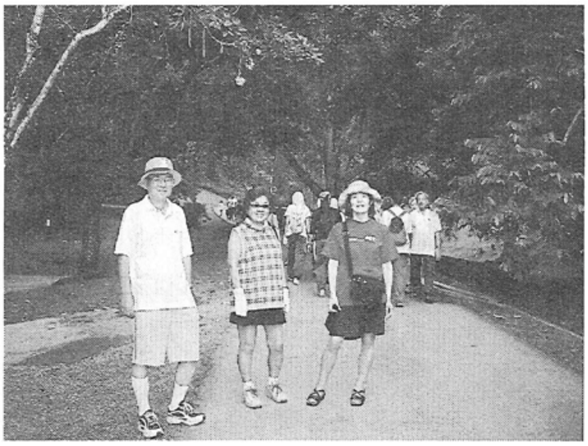
食べたフルーツ

ワンストップショッピングセンターの韓国物産展では木村さんお勧めのキムチを買いました。唐辛子が沢山入っていますが辛くはありません。衣料品はコムター、アイランドプラザ、ガーニプラザ、ワンストップの各シッピングセンターに何度も女性達は買いに行きました。建国記念のメガセールをしていた事もありますが安かったようです。ローカルの人が行くマーケットでは値切るとまけてくれますし、そのヤリトリが面白くて時間があれば行って遊んでいました。買い物のついでに足ツボマッサージにも行きました。30分640円でした。

屋　台

ペナン支部長の木村夫妻、藤原さんから度々屋台の食事に誘って頂きました。

ペナンに着いた３日目の夜にさっそく木村夫妻、竹岡夫妻、小野さんと「ゴールデンゲート」にスチームボートを食べに行きました。藤原さんも来られて大勢で賑やかな楽しい夕食になりました。藤原さんには植物園にウオーキングに連れて行って貰う約束をし次の日に行って来ました。



藤原さんと植物園に

一日おいて木村、橋本両夫妻と「ゴールデン・ホース」の屋台に行きました。屋台が沢山並んでいて料理を頼むと席まで持って来てくれます。飲茶の蒸し物３点、鍋焼き風チキンライス、野菜炒め、ピザなどを食べました。橋本夫妻は木村夫妻と同じ山梨とお聞きしました。翌日ゴルフで一緒しました。

昼食では木村夫妻とペナン大橋を渡り古い町JAWIに「蟹雑炊」を食べに行きました。
「茹でタコ」を持参のわさび醤油で食べる。美味しい。お目当ての「蟹雑炊」、蟹が沢山入っている。爪の部分も割ってあって食べ易い。全員満足。

JAWIの蟹雑炊の店

藤原さんに連れて行って貰った日本食の屋台で食べた親子丼、カツ丼、チキンライス、幕の内は味が日本人好みで美味しかったです。日本人の駐在員の奥さんが味付けを教えているそうです。

夕食では藤原さんと一緒した「ヘレステーキ」が柔らかくてボリームがありスープに飲み物が付いて安くてお腹一杯。大満足。普通のレストランのように綺麗な店でした。

バスと車

ペナンでの移動は最初の日はタクシーを利用しましたが二日目からはバスを使いました。バス代は80セント(25円)乗るときに小銭で払います。釣りは出ません。運転はかなり乱暴でドアーを開けたまま走り出すしカーブでも速度を落とさないので立っていると危ないです。バスは少し年を取ると危なくて乗れないかなと思いました。陽気なドライバーが多くて大きな声で歌いながら運転したり、物を食べながら運転していました。バスはパブリックではなくて民間会社が何社もあってつぶれているバス会社もあり、ドライバーが勝手にバスを持ち出して運行して

いると言う怖そうな話しに少し納得しました。

これは困った事ですがペナンは車優先で信号が少なくて道路を渡るのが怖かったです。現地の人は車の間をスイスイ渡るのですが信号に慣れている私達はなかなか渡ることが出来ず苦労しました。

バスの停留所は有りますがアナウンスが無いので自分が降りるところが近づいてくると油断が出来ないので慣れるまで苦労しました。でも乗るときにドライバーに言っておけば着いたときに合図してくれました。どのバスに乗れば良いか判らない時に近くにいる人に聞くと親切に乗り場まで連れて行ってくれました。買い物に行って店を聞いたらその店まで連れて行ってくれたり本当に親切にして頂いて嬉しかったです。昔は日本もこうだったなあと思います。

持参の食材と料理、水

ホテルの下見をした時に簡単な調理器具を貸してくれると聞いていたので調味料、味噌汁の素、蕎麦、素麺、お餅、パックのご飯などを持っていきました。しかしホテルのトップが替わり何も貸して貰えず困りましたが、部屋にある湯沸しポットで麺や野菜、餅まで茹でて食べました。一つのポットで茹でてもう一つでは御湯を沸かし蕎麦と野菜、豆腐、キムチ、味噌汁、果物で部屋食を良く食べました。工夫すれば何でも出来るものだと思いました。

ペナンではお腹をこわす事も無く水も大丈夫でした。勿論生水は飲みませんが歯磨きは水道水だけでＯＫでした。水も殆ど買わず沸かして冷蔵庫で冷やして飲んでいました。

観 光

コムターで観光のトライショーに３人で乗りました。３人乗りは狭く運転のおじさんがしんどそうでした。トライショーは自動車道をゆっくり走るので周りの景色が良く見えて、自動車も避けてくれるので快適でした。ペナンで一番壮麗な味わい深い中国寺院の「クー・コンシー」金銀の装飾や壁に施された極め細かい彫刻が見事でした。モスク、観音寺、インド人街、セント・ジョージ教会を通り「ペナン博物館」ではマレーシア、ペナンの歴史、文化に触れました。

ミニバスに乗りビルマ通りで降ろして貰って涅槃仏とビルマ寺院にも行きました。涅槃仏の前ではバスで来たと言うと15RMの写真を10RMにまけてくれて撮りました。ビルマ寺院では自転車に乗ったおじさんが日本人かと声を掛けられ、戦争に行ったと言い、君が代や富士の昔の日本の歌を聞かせて呉れました。

ペナンヒルにはバスでアイル・イタムで乗換ケーブルで登りました。平日でも乗客が多く、頂上からはジョージタウンの町並みペナン大橋が良く見えました。夜景をまた見に来たい所です。長時間の路線バスは少し疲れました。

トロピカルフルーツファームはホテル前からバスでテロ・バハンに向かいタクシーに乗り換えて行きました。観光客20名位と合流し木に生っている果物を興味深く見ました。ドラゴンフルーツ、カスタードアップルなどはじめて見る果物が沢山ありました。

小旅行

ペナンを拠点に「ランカウイ」「クワラルンプール」「バンコク」に出掛けました。

ランカウイは免税の島です。２時間半のジェットフェリーは揺れと強冷房で大変でしたが海はとても綺麗でした。ビールも１本40円と安くで２ダース買って帰りました。タバコも空港の免税店よりさらに安かったです。ペナンから大勢の人が買出しに来ていました。夜は勿論、屋台で食事、マーボー豆腐に酢豚、汁麺、美味しかったです。

クワラルンプールは３列シートの高速バス(ナイスバス)で５時間半の旅です。弁当付きで1,600円、高速道路を走るので快適でした。たまたま加藤夫妻と一緒になりました。２時間位でトイレ休憩を取り、あとはクワラルンプールまでノンストップでした。

ナイスバスで加藤夫妻と

ホテルにクワラルンプール在住の「末さん」が見えられ挨拶をしました。夜は「ハッカレストラン」で加藤夫妻と一緒に食事をしました。美味しかったので次の日もこの店に行きました。クワラルンプールでは３泊(イスタナ、JWマリオット、マンダリン)と少し贅沢をしました。女性達のホテルでのエステがお目当てです。マンダリンホテルが一番気に入ったようです。

バンコクは一泊でしたが「タイスキ」「ソンブンの蟹」「オカマショー」などを満喫しました。

ゴルフ

ペナンにはゴルフバッグを持って行きました。木村夫妻のホームコースの「ペナン・ターフ・クラブ・ゴルフ場」に４回、クリスタルゴルフリゾートに１回行きました。木村夫妻のホームコースは競馬場に併設されていてホテルからも近く便利な所にあります。午前中アウトコースだけまわって良い汗をかいて帰る事が多かったですが、最初の日には橋本夫妻と競馬場の中に作られているインコースもまわりました。クリークに何度も入れて苦戦しました。プレイ後はまゆみさんお勧めの「アイスカチャン」を食べて帰りました。料金はメンバー同伴でグリーンフィー35RM、キャデイフィー30RM(ハーフは15RM)でした。

クリスタルゴルフにはメンバーの加藤さんと帰国直前の休日(月)に特別に御願いしてプレイさせて頂きました。乗用カートで２人だけの貸し切りです。コースは椰子の木が南国のコースに良くマッチしており、整備も行き届いていて気持ち良くプレイ出来ました。

もう少し他のゴルフ場にも行きたいと思いましたが日程と同伴者の制約があり行けませんでした。次回は家内を早くコースに出れるようにして再度来たいと思っています。

パソコン

１ヶ月日本を不在にしますので公私の連絡用にパソコンを持って行く事にしました。Ｂ５サイズの軽量タイプ(１Kg)を購入、海外用モデム、モデムシェイバー、変換プラグ等を用意しました。日本で加入しているインターネット接続業者「ぷらら」からペナンで接続する為の(トラベルＩＤ、パスワード)を取得しました。事前に南の会の阿部さん、古河さんの投稿を参考にさせて頂きました。

ホテルに着いた翌日朝からパソコンの設定をし接続のトライを始めましたがなかなか繋がらない状態が続きました。ホテルの日本人スタッフの松井さん、木村夫妻からもホテルの部屋からは無理そうだと言われ、中断して夜に再度トライしました。この間ホテルのビジネスルームに行って持参したフロッピーのソフトを使いメールのチェックをしました。仕事の問い合わせメールに返信しましたが、日本語入力分からず、ローマ字入力にしました。ビジネスルームは１時間10RMでした。

夜、幾つかのトライの後、外線の９番の次にスペースを入れてこちらの接続先を入力するとやっと繋がりました。溜まっていたメールも無事受信する事が出来ました。節約のため一度切断し、返信メールを作成して送るために接続に行きましたが今度はなかなか繋がらずそのうち全然応答が無くなりこの日は諦めて寝ました。

一日おいて朝早くパソコンが繋がり家内が溜まっていたメールの受信を始めました。南国メールに写真付きメールが複数あり受信に１時間掛かりホテルの部屋からの受信が大変だと実感しました。4〜5日後にホテルのフロントから電話代が200RMを越えたと明細が届きました。家に掛けた電話代が100RMで残りはパソコンです。

繋がらなくても１回 0.41RM電話代が掛かり
４日間で163回無駄な(繋がらない)アクセスがあった事が分かりました。今日以降はパソコンの外部接続は２日に１回に制限する事、家内のメールも私のアドレスに送って貰う事にしました。帰国する時に払った電話代は400RMで、パソコン用は250RMでした。

ホテルの部屋からのインターネット接続は今回出来ましたが日本の高速通信と違いメールの送受信がやっとでホームページはとても見れませんでした。接続がなかなか出来ないのはホテルと無料のスタンダードＡＰに原因があるのかも知れません。次回からはパソコンは記録用に使いメールはインターネットカフェを利用しようと思っています。

おわりに

１ヶ月のロングステイは始めてでペナンで何をして過ごすのか少し不安がありましたが、終わって見ればあっという間の１ヶ月でした。楽しく、のんびり過ごす事が出来ました。また近い内にペナンを訪れたいと思っています。ペナン在住の木村御夫妻、藤原さん始め大勢の方に大変お世話になりました。改めて御礼を申し上げます。本当に有難う御座いました。

支部・部会伝達版

関東支部

支部長 No.163 宮崎 哲郎

サロン「南の会」及び第２回情報交換会のご報告を致します。

(1)10月・サロン会(10月13日開催)正会員、家族会員、ビジター総数73名のご参加を頂きました。これはサロンでは新記録です。50人定員の部屋にどうする？ 困りましたが冷房を効かしてもらったり立ち見でナンとかしのいだ次第です。パース支部長の藤本さんの近況報告、チェンマイ深見さんの月６万円生活可能とのお話に大爆笑。立道さん「セブ見なおしました」の報告と「年金21万円‥」シリーズ第３弾のご案内が有りました。

(2)11月・平成15年度第２回情報交換会(11月29日)関東地区だけでなく全国の方が参加され総勢90名でした。

1. 会員の酒匂愛子さん「東カリブ海クルーズ」のご報告。工藤北海道支部長撮影のビデオが好評でした。
2. 会員のプロライターの戸田智弘さんより「海外において犯罪に巻き込まれない為に」と題して貴重なお話をいただきました。
3. 会員の磯崎先生より「ＬＳ中の病気予防と対処方法」についてのお話がありました。質疑応答が大変活発でした。

(3)12月・忘年サロン会(12月14日開催)
たまたまこの日は平成15年12月14日で300年前の元禄15年12月14日は「赤穂浪士討入り」の日と、平成と元禄が違っただけの「泉岳寺」至近の場所でサロン会が行われました。
更に参加者は約47人と何か因縁めいた日でした。昼から忘年会を始めたため、皆さん別れがたく、２次会、３次会まで続いたようです。
今年のサロン会は１月10日(土)、２月14日(土)３月14日(日)が今のところ決まっております。
出きるだけ広い部屋か２室を確保し余裕を取るようにしております。
サロンに出席される方は準備の都合がありますのでパソコンをおもちの方は南国メーリングリストで其の他の方は下記にTELかFAXで必ずご連絡下さい。

連絡先：　宮崎 03-3472-9954 (TEL&FAX)
　　　　　菊地 047-463-5183 (TEL&FAX)
　　　　　高澤 0423-73-6530 (TEL&FAX)

ご都合の良い所へご連絡下さい。

タイ国際航空は(2003年10月26日～2004年3月27日)までの冬期スケジュールを発表しました。

TG671便 B777-200 火・金・日運航
成田09:45発 ⇒ チェンマイ14:55着
TG673便 A300-600 月・木・土運航
関空01:25発 ⇒ プーケット06:35着

快適！ ペナン一人暮らし！！

ペナン在住 会員No.639 藤原 迪子

これがペナンでの私のキャッチフレーズである。そして、ペナンに暮らして、もう1年と半年が過ぎた。

このたび、投稿のご依頼を頂き、改めて会報を読ませて頂きました。実に、細やかに、裏話しなど、各国の、習慣、民族性、お国柄など、豊富なご体験を楽しく拝読し、改めて楽しい気分で勉強させて頂きました。

そこで私は、ペナンを生活の場として暮らしておりますので、ごく日常的なことを書かせていただく事にいたしました。

<どうしてペナンなの？>

65歳目前まで、仕事中毒の毎日だった。仕事だけが全て･･･ふと気がつくと、早や、60歳も半ば･･･振り切るようにして退職･･･趣味もなければ、特技もない、まして老後の準備など思っても見なかった。会社を辞なければ、次のことなど考える余裕などなかった。仕事離れ、会社離れするためにも、思い切った転換が必要だった。

自分のサラリーと主人の年金とでルンルンの生活から一転して年金だけの生活･･･しかも主人は死亡なので満額はもらえない･･･自分でも30年も厚生年金を払ってきたのに、２人分は頂けないのですって！ いやいやこれでは生活できないナーと心細くなった。

そこで、年金で暮らせる方法をインターネットで検索･･･立道和子さんの本を見つけた。

一人暮らしだから１＞安全性（治安）

２＞時差がない。

３＞物価が安い。

この３点が決めて、もうペナンに行くしかないと思った。

ペナン以外は行く事もしなければ、考えもしなかった。迷ったら何も出来ないと思っている、なまじっかの見聞は迷いを生じる。ペナンにしょう･･･だから････決断も早い。どこに行っても、良くも悪くも自分次第！ 早速実行！

<移住準備開始>

失業保険受給期間中に2回ほど体験のためステイ･･･そして、木村ご夫妻に出会った。これが運命の決め手となって現在に至る。とにかく明るく、生き生きと屈託のない･････そんなご夫妻に接していると何の不安も感じなかった。心配しないで･･･この言葉が何よりの勇気となった。

それから、留守宅の整理･･･賃貸として家賃も入れば助かるなー。
人に貸すとなると、家を空っぽにしなければならない。それが一番大変だった。
思い入れの品々との別れも辛かったけど、でも、それをしなければ、ペナンに行く事は出来ない。不要物は家の前に並べて、「ご自由にお持ちください」と書いて並べたところ、見事になくなった。

<そしていよいよペナンに向けて･･･>

無謀にも日本には後戻りできない状態にして、ペナンに来てしまった。住まいも定まらず、ビザもまだ･･身の回りの荷物はダンボール６ヶだけ･･･
日通海外引越五反田支店に、１月半預かってもらった。

ホテル滞在中の１ヶ月の間に、コンドミニアムを見つけて、ビザを取得して、身の回り品だけで生活が始まった。
当初の費用･･･¥500万円は電話で資金移動が出来た。本当に便利でも時期が丁度円安。その後も、こちらで生活をしなければという思いがあったので、しっかりお金を移してしまった。
電話一本で簡単に金銭の移動が出来るのに、慌ててお金を移した事は失敗だった。

レートの変動がわが身に、この様な影響が有るとは思ってもみなかった。だから私のお金は常に￥３４/ＲＭ１で計算しなければならない。（因みに今は￥２９/ＲＭ１）こんな事も、直面して見なければ、分からなかった事である。

ビザ取得のための初期費用、(定期預金、保険加入、健康診断の費用、保証金、その他)コンドミニアムの賃貸契約費用等の諸費用その他、ホテル滞在費、渡航費、５年間の生活費用などなど･･･それらの資金も移動したが1年が過ぎて、一寸多すぎたなー････この分だと、7年は此方で暮らせる計算である。移したお金はとても日本には持って帰れない。そこで使い切ってから、日本に帰ろうと今は思っている。

＜さあ！！ペナンの生活の始まりー＞

コンドミニアムは３ベットルーム、日本では考えられないようなゆったりした空間、ペナンの一等地！

＊人の生活が見えるところ････交通が便利なところ、バス停はすぐ目の前、バルコニーからはオーシャンビュー！空も海も１日に何回も景色が変化して、見飽きる事がない。

＊いつも人の賑わいを感じるところ･･･
ペナンの動脈だから、車の流れを見ていると本当に血が流れていると言う感じが、たまらない！　ただ、時折、バイクの猛烈な騒音に、びっくりするが、それも好きだ。
お祭りともなれば、花火の音、爆竹の音、ガンガンなるスピーカーの音、本当に逃げ出す人もいるくらい。そんなところに生活をしているが、本当に楽しいと思う。

＊家賃は５万円前後･･･と思っていたが、RM1,800という。(¥61,200)ちょっといたいけど、ハウスキーピング付だというし、まあ、いいか！････でも部屋は満足！
実際に、生活してみて、確かに日本も物価が安くなって、変わらないと思う事もあるが、生活の必需品、食べ物電気水道その他の公共料金、などが安く、税金もなし、そして何より金銭感覚が違ってくるから不思議である。何でも、円に換算すると安く感じるが、リンギットだと高く感じる。

＊普段は屋台で食べても¥300もあれば十分、¥100で済む事もある。お客様と会食しても¥1,500は最大の贅沢となる。したがって私の1ヶ月の生活費は家賃が6万生活費6万　合計12万円で十分･･･罰が当たりそうな贅沢である。
この2月、ついに車も買ってしまった。なんて贅沢な事かと･･･心苦しく思う事もあるが‥ペナンでの生活はいっそう快適となった。
ところが、「ひょんな」ことから友人のコンド探しを手伝っているうちに、もっと安く、もっと広く、もっと便利なコンドを見つけて12月末を持って引っ越す事にした。
収入は無いのだから、支出を抑えるのが、生活の知恵････遊びに来ているわけではないから、生活第一に考えて･･･
兎に角、自分のレベルに合わせ、自分流の生活スタイルを選べるのがペナンである。

＜そして私の1日の過ごし方＞

＊毎朝、7時から1時間半、散歩･･･約5K歩く。
帰ってからシャワーを浴びて、ゆっくりお茶を飲んで(朝食抜き)テレビを見て、ようやく昼になって、きれいなショッピングセンターをぶらつき、夕方は「Coffee　bean」でお茶をしながら読書、判らない会話を聞きながら騒音の中で本を読むという特技がある。

<u>**毎朝の散歩道**</u>

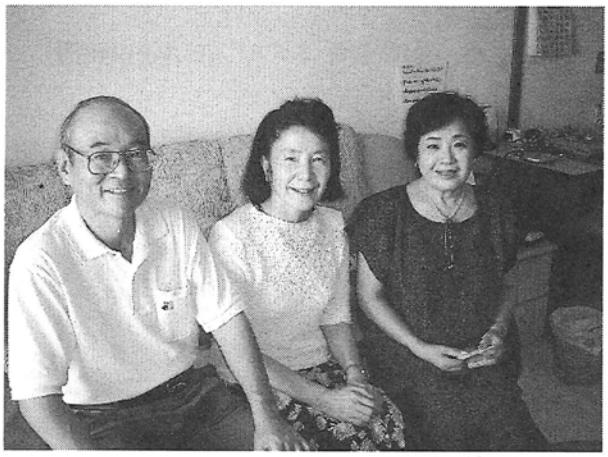
＊何十年ぶりに針と糸を持って手芸をしたりしている。自分流に服や、バック、ブックカバーなど造り、一人悦に入っている。
私にしては刺繍の大作に挑戦･･･フレーム屋で額縁を作って、我が家のギャラリーに飾っては･･･毎日、見るたびになんとなくうれしくなる。(額縁が安い！)
全て自己流だから人様にはお見せできないけ

ど、こんな事に熱中できる時間が本当にうれしい。

＊ゴルフなんて・・・と思っていたのに、ついにセットを買ってしまって、もっぱらレンジで打ちっぱなしだけ・・・

＊40数年振りに水着も着た。スイミングのメンバー・・・・・いま忙しくてサボリ勝ち・・・

＊そして、何よりの楽しみは、ペナンを訪れてこられる方々との交流である。



南の会の吉田さんと

「南の会」のお仲間に入れていただいたおかげでいろんな方に出会える・・・
ご連絡いただいた方には必ずメール交換をして、ホテルで初対面・・・旧来の友人の様に親しく接する事が出来るのが不思議である。そして必ず私の住まいに来ていただく事にしている。こちらでの、標準的な住まいなので、参考になるかと思う。

そして、ショッピング、モーニングマーケットのご案内、屋台での食事・・・必ず１回は、シーフードレストランにご案内している。
安くて、皆さんびっくり・・・とても喜んでくださるので、私もうれしい。
割り勘が鉄則。飲み代は別会計。これがペナン方式である。

何しろ此方にいると遊ぶ事が仕事なのだから、皆さんが来て下さって、一緒に時間をすごせるのが何よりの仕事・・・
そして、皆さんが喜んでくだされば、それが自分の喜びでもある。

ただ心配なのは、何しろ脳みその劣化で、ツギツギと頂くメールの整理が出来なくて、こんがらがってしまって、勘違いや物忘れで、皆様にご迷惑をかけないかと・・・それだけが心配だ。もしその様な事がありましたら、なにとぞお許しください。

日本の冬が近づくと、越冬組の皆さんが続々とこられる。こうして出会えた方々と又会える時期が来た。何にも考えずに来て、何にも考えずに毎日暮らしているうちに、皆様との交流がペナン生活での私のライフスタイルとして定着しつつある。
つまり「ペナンには、藤原さんがいるよ！」と言って頂けるようになれば、うれしい。そして、喜んで皆様のご来馬のお手伝いをさせて頂きたいと思うこの頃である。

<めぐり合った人々>

最後にめぐり合った人々の紹介
本当に良い方ばかりに出会えた。

木村さんご夫妻・・・

一人ぼっちのとき必ず電話がある。まゆみちゃんの声が私の元気の素・・・以心伝心と言うか、私の大事な財産です。

大家さん・・・

とても親切で皆に羨ましがられるほど良くして頂いた。それなのに引っ越す事になって申し訳なくて・・・悩んだ、でも気持ちよく了解してくださった。

英語の先生・・・

時間外をよく遊んでくださる・・・此方の習慣、出来事、何でも教えてくださる。（何しろ言葉がわからないので、テレビも新聞も読めない。）
また先生と一緒に、ボランティアで海苔巻きをして、感謝状を頂いた。先生のお陰。でも肝心の英語はさっぱりで申し訳ない。
不真面目なのです。

近所の人（チャイニーズの家族）

同じコンドミニアムの住人。家族ぐるみで面倒を見てくださる。パソコンの調子が悪いと飛んで来て下さる。
私の家族、友人関係、ペナン生活、日本との連絡など一切を預けている。

「一人暮らしの万が一」の時の事を考えると、なくては成らない信頼の出来る人。

近所の日本人(駐在の奥さん)

人間関係の難しい日本人・・・でも全くかかわりのない私とのつき合いは、とても気が休まるそうです。そして私も楽しく食べ歩きや、ゴルフで遊んでもらっている。

ペナンでの暮らしを快適に安全に暮らすための生活術は「信頼できるローカルの友人と上手に付き合う」事も忘れてはならない。

<最後に>

私は、自分なりに理想的なセカンドライフを実現したと思って、今ここに発表させて頂いているが、これはあくまでも、私自身に限っての事である。全ての方にとっての理想はそれぞれに違いそれぞれに別の方法はあると思う。要は、全て自身の責任において行動し、実現するものだと思う。

<もう一つのご忠告>

日本を離れて住むとなると、ひとつ間違えば、日本に居たときより一層世間が狭くなる。そして、ひとつ間違えば、孤独になった時の耐え難さは辛いものがある。そうなった時も、自身で跳ね返す気力も、なければばならない。

人間社会は何処も同じ、悪口、嫉みは日常茶飯事、ペナンとて違わず・・・・

私の体験においても然り、目に見えないところで、得体の知れないものが、どろどろと蠢いて不気味ではある。特に女性の一人暮らしは、標的にされ易い。これは痛切な実感である。
私はだからこそ、精神誠意、毎日を誠実に潔白に過ごしているので何も怖いものはない。

兎角、きれい事で世の中を収めようとする傾向が常であるが、あえて事実の一環として一筆添えさせて頂いた。

以上、私の「快適！ペナン一人暮らし」です。
書き始めると、あれもこれもと、取り留めもなくなってしまいました。
丁度、1年半が過ぎて、自分を思い返す良い機会でもありました。

海外でゴルフ

パース(フリーマントル)

No.315 鈴木　剛

コース名　Fremantle　Golf　Course
住所　Montreal　Street, Fremantle
電話番号　9432-9816
料金
　平日　現地通貨 12ドル（日本円960円）
手引カート料金
　有 料金 現地通貨 3ドル（日本円240円）
キャディフィー・チップ
　キャディ無。オーストラリアはキャディ制度なし
プレーの申込み方法
電話で予約もしくはゴルフ場のプロショップで直接申し込む。
コースの環境
Fremantle(港町)から車で5分で、名門のRoyal Fremantle　Golfクラブに隣接したパブリックゴルフ場。
市民が気楽に親しめるゴルフ場になっている。
毎日午後になると地元の人がFremantle Docterという海からの涼しい風が毎日吹く。
コースの特徴(山岳・シィーサイド・フラット)
若干傾斜はあるが、殆どフラット。
9ホールのコースであるが、難易度は高い。正直いって素晴らしいコースとは言い難いが練習するコースとしてお勧めできる。

私が借りていた家から車で5分のところにあり、毎日のように通っていたゴルフ場。
このゴルフ場の責任者Mr.Neil Darbyshireは、日本のゲーリープレーヤーゴルフアカデミィーでゴルフ3年教えていたレッスンプロで、日本語が堪能(私は彼にゴルフだけでなく英語も教わりました。)

ゴルフに対する情熱も強く、同コース併設の練習場で一般人だけでなく、高校生やジュニアの育成に情熱を注ぐ気さくなナイスガイ。

ブルガリアに住んでみて

岐阜県在住 会員No.94 高橋　昭

ブルガリアへ

私がこの国を知ったのは、従兄弟の娘が大学在学中、フォークダンス同好会に所属して居た時、ブルガリアの民謡を聞き、興味を持ったのが始めでした。

時々インターネットでブルガリアの情報を覗いている時、偶然シプカという小さな町に高田さんという夫婦が長期滞在しているのを見つけ、それまでの興味の蓄積が爆発して急に出掛ける事になりました。

5月30日オーストリア航空ウイーン経由でチェンマイ空港を思わせるソフィア空港にその日の午後9時50分降り立ちました。

ヒンヤリとした夜気の中、ホテルに向かう街の様子は信号も完備しており、想像以上の近代化を思わせるものがありました。

ところが翌日ホテルの窓から見た街は老朽化し、壁が剥げ落ち、レンガ剥き出しのビルや失業者が路上で百円ライターなどを売る姿を見て、この国の現実を知る事になりました。

ホテル前の交差点

昨夜空港に出迎えてくれたソフィア大学日本語科に在学中のミトォコ君に案内されてシプカ行きのバスに乗り込みました。ミトォコ君にはここで別れを告げ、地平線まで続く広大な平原の中の高速道路を一路シプカへ。

どんな国

日本の国土の約1/3、そこに800万に満たない人口、嘗てワルシャワ条約機構の一員として比較的豊かで平和な営みがあったこの国も、ソ連の崩壊と共にロシアの援助が無くなり、且つ改革の遅れと、その後の急激な改革路線の変化で東欧の最貧国となってしまった国です。

ブルガリアの歴史は古く、その首都ソフィアはヨーロッパでも最古の都市の一つといわれ、紀元前5世紀にはトラキア人が定住しています。

ギリシャ系住民の祭り衣装<スリーベンにて>

その後、古代ギリシャ、ローマ、ビザンティン帝国の支配を受けたが、7世紀に遊牧民族であるブルガール人が第一次ブルガール王国を建国しました。

スラブ文化の遺産である、キリル文字は、キリルとメトディー兄弟によって、この時完成したと言うのが定説となっています。また、10世紀にはバルカン半島第一の強国となり、ブルガリア文化の黄金期を迎えます。

しかし1396年からおよそ500年にわたり、オスマントルコの支配下となりました。

この長い植民地時代も露土戦争によってロシア軍が勝利し、1878年にトルコより解放され、立憲君主国として第三次ブルガリア王国となり、1944年まで続きました。第二次世界大戦後は共産党政権による人民共和国となりましたが、1989年から民主主義と市場経済への移行のための改革が始まっています。

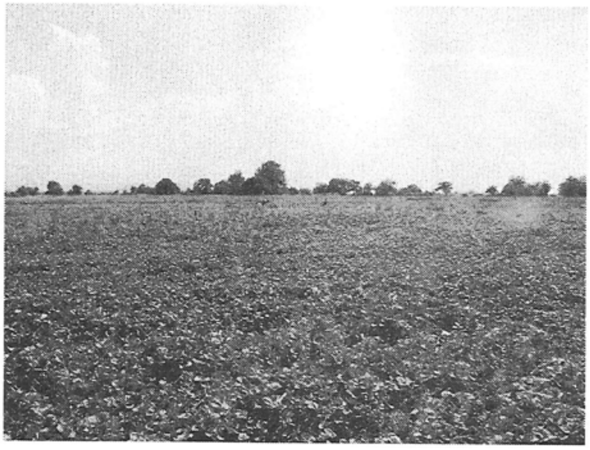
ブルガリアの気候風土

バルカン山脈の北からルーマニアとの国境を流れるドナウ川までは大陸性気候で、夏は40度

近くになる事もある。また冬季は氷点下15度になる事も珍しくは無く、且つ多雨といいます。

一方バルカン山脈の南側は地中海性気候で、夏は30度を越えることは珍しくないが、空気が乾燥している為、日陰に居る限り快適の一語につきます。

一方冬季も岡山県あたりと比較しても遜色ないほど温暖だと言います。しかし年間降雨量は800ミリを超える事は無く、特に山脈の南側での日照日は80%を越えると言われています。



何処までも続くイチゴ畑

殆どの農作物が栽培可能ですが乾燥に弱い作物の大規模栽培は、現在での灌漑設備では不可能と思われます。

シプカの街

高速道路を一路ひた走り、夕闇の迫るシプカ町へ到着したのは午後の8時近く。バス停には高田氏と民宿？のイバン氏が出迎えてくれました。

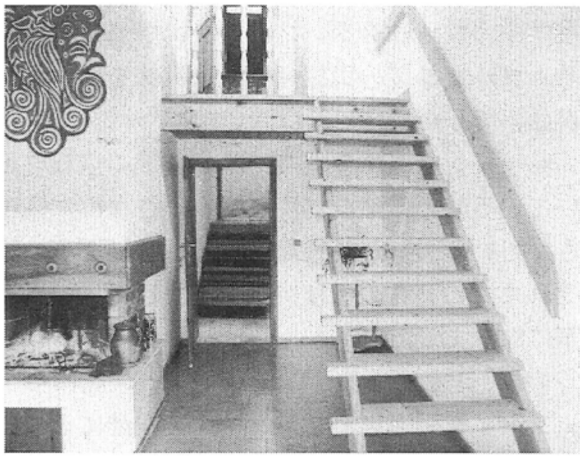
イバン氏の民宿は一泊朝食つきで25レーバ、夕食を含めても30レーバでした、1レフが約65円として2千円弱と言ったところでしょうか。

ここには16日間滞在しました、このあたりでは一般的な価格でしょうか。この後はアンドレアという元バルカン航空の地上整備員をしていた男の家に間借りする事にしました。

家賃は約1万3千円/月で端数日は日割り計算、電気、水道、ガス代込みというものでした。
部屋の間取りは10畳ほどの寝室に二つのベッドに洋服ダンスが一つ、部屋には冬季用にペチカがあります。

この他にはリビング兼ダイニングが12畳ほど、それに暖炉があります。

それと小さいながら専用のキッチンには電子レンジ、冷蔵庫（モーレツに旧式、日本の昭和30年代）ガスおよび電気ヒーター、オーブンといったところ。



アンドレア邸のリビング

トイレは洋式、温水シャワーが付属しています。和食が作れるように鍋や食器はカザンラック（バスで片道約30分、26円程度）のスーパーで買い整えました。このほか食料品などは、やはりカザンラックの市場で調達していましたが一回の買い物で300円を超える事は殆どありません。

米もイタリア産のジャポニカ米をキロ100円程度で買っていました、炊き方を工夫すれば多少粘りは少なくても何とかそれらしくなって、困る事はありません。

この国で特筆すべきは果物の安さでしょう。先ずサクランボは家の外にあるものは全て自由に食べてよい事になっていますし、道を歩いているとビニールの袋にいっぱいのサクランボやイチジクをくれる事もあります。

中には失業中の家庭もあまり深刻にならずに陽気に庭に呼び入れてヨーグルトを振舞ってくれる事もありました。

メロンや西瓜も大きなものでも6・70円で買えますので、これらを毎日欠かした事はありません。

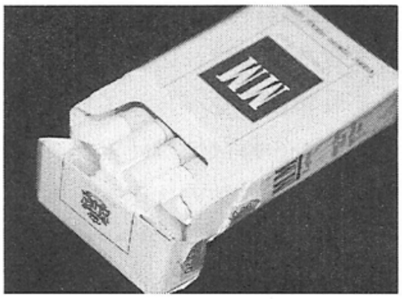
特筆すべき第二弾はビールの安さでしょう、500mlの壜で30円ちょっと、2リットルのペットボトル入りというのもあります。

缶ビールは容器代が高いので倍の金額になる

ところがいかにも途上国の感がします。

ビールが安ければ当然タバコも安いはずで、箱入り、フイルター付き一箱の値段は60円からあります、無論輸入物は200円近くになり、一般のブルガリア人には無縁のものです。

代表的なビール



ブルガリアのタバコ

ブルガリア人は大変なタバコ好きで、乗り物と病院以外は全て喫煙ＯＫで非喫煙者には大変残酷な国です。

ブルガリア人とは

チェンマイ滞在記にも書きましたが容姿が日本人的だと何か安心というか身構えなくても済む気安さがあります。この国の人たちも8割以上が日本人とあまり変わりない身長で、顔立ちこそ彫りの深いヨーロッパ系ですが多くは黒髪、ブルネットやブロンドは少数といっていいでしょう。そんなところが意外と違和感を拭い去ってくれています。

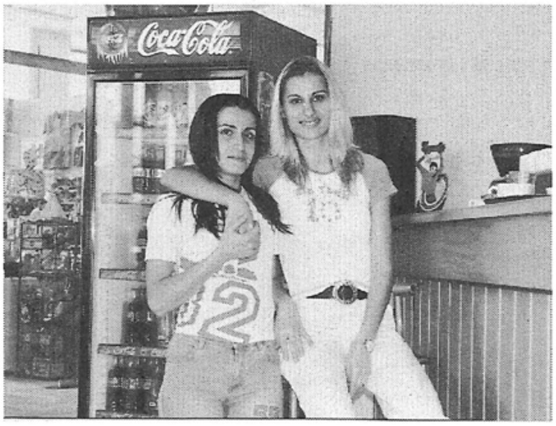
また日本人には第二次大戦中日独伊と共に連合国と戦った同胞としての親近感と中央アジアから移動していったブルガール族の血が中国人を除く同じアジア人として接してくれるので安心感はあります。

何かにつけてこの国の人たちは写真が好きです、カメラを向けると必ずといっていいほどポーズの姿勢をとります。

あるときイチゴの収穫をしているところに偶然出会ったところ、既に選別し終わったイチゴの箱を又ばら撒いて、選別しているところを写せとせがまれた事もあります、その上帰り支度をしている同僚まで呼びに行く始末です。

又、カザンラックの街の喫茶店でもカメラを持っているのを目ざとく見つけたウエートレスが私一人を残し何処かへ行ってしまいました。

暫くしてもう一人の女性を連れてきて、一緒に写してくれといわれたのが次の写真です。



街の喫茶店で

この国の観光とレジャー

南の会では最も重要なファクターであるゴルフについては、残念ながらソフィア近郊に一箇所18ホールのエアーゴルフクラブというのがあるだけです。ここは総合レジャー施設ということで乗馬、テニス、プール、アスレチックスなどがあります。

黒海沿岸では海水浴と共に海洋レジャーを楽しむ事が出来ます。

観光地としてはギリシャ国境近くのピリン山系が登山や冬のスキーリゾートとして近隣諸国からも多くの客を集めています。大変重厚な山塊で迫力のある山です

この国には隣のギリシャのような壮大な遺跡は、相次ぐ侵略の歴史の中で破壊されて残念ながら一部しか残っていない、しかし日本の1/3しか無いこの国には日本以上の世界遺産があります、つまり荒らされていない自然も多くあるのがこの国なのです。

もう一つ、この国の最大のメリットはここを

基点としてヨーロッパ中を容易に旅行が出来る事です。

先ずソフィアからは列車で南のギリシャ、北のルーマニア、更にハンガリーのブダペスト迄寝台特急が大変安価に行き来できる事、また国際バスも道のあるところなら縦横無尽に走っています。私も滞在中、数度にわたってヨーロッパを旅しました。

ウイーンのブルグ宮にて

一例ですがギリシャのテッサロニキまで寝台特急往復7千円ほど、オーストリアのウイーンまでの高速バス往復が60歳以上の場合75ユーロで行くことができます。

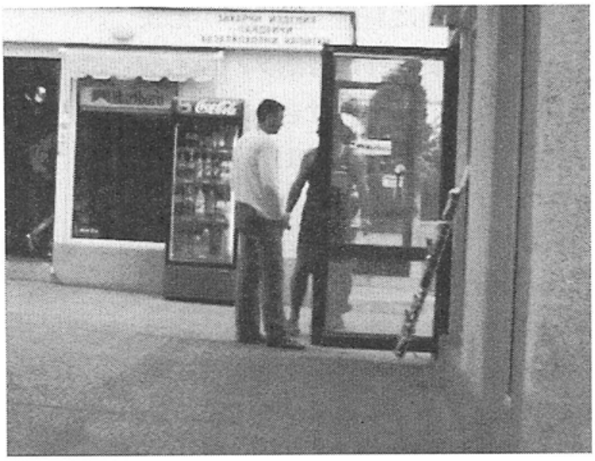
ブルガリアの治安

残念ながら決してよいとはいえません、バスセンターや国鉄、特に国際バスや列車の駅周辺には一見して其れと判る掏りやひったくりのグループ、言いがかりをつけて金品を強奪するごろつき、果ては睡眠薬強盗などが屯しています。

私も次の写真のようなごろつきに絡まれましたが大声で「ポリッツアー」(警官)と数回叫んだ所、大勢の人が集まってきたので、ごろつきはコソコソと引き揚げて行きました。

ロマ人(ジプシー)は掃除などの３Ｋに従事するものが多いのですが、小額の貨幣であっても、さっと足で隠してしまうほどですから、うっかり高額紙幣など落とそうものなら「此れは自分の物だと主張して返してはくれません。

ぐずぐずしていると前に述べたごろつきに忽



国際線バス付近に屯するゴロツキ

ち取り囲まれる事になります。

又この国はアメリカ同様銃社会でもあります、少し大きな町には、必ずといって良いほど銃砲店があり拳銃も並べられています。

トラブルの解決には時として銃器が登場する事もあり殺人件数の比率も日本をはるかに上回っているとの情報もあります。

月３万円で暮らせるか

結論から言えば間違いなく可能でしょう。しかしその中身は当然限定されます、例えば自家用車ではなく公共交通機関利用(想像以上に安い)が中心になります。

仮に自家用車を持つとして、この国の国産車はありません、殆どがＥＵからの中古車が中心で、日本なら廃車になる12〜3万キロの中古車が35万から40万程度で売られています。

ただメカに強い方ならエアコンやトルコン車が無いから、自分で整備できるので燃料以外の出費は極力抑える事が出来ます。ロシア製やチェコ製の40年前の車なら大変安く買うことが出来ます、またもう一つは住居の問題です。物件が無い訳ではありませんが、日本人がそのまま使える物件は多くはありません。例えば浴槽というものがありません、自分で設置するしかありません、エアコンも然りです、更に不動産と言うのも存在しません、口コミだけです。

もう一つは冬の暖房費です、一般的にはペチカという薪ストーブを使いますが、自分で薪割が出来ればまあ良いのですが誰かに依頼すれば出費がかさみます。

食費は外食をしなければビール１リットルの晩酌は余裕でしょう、飲みすぎには要注意ですが。

結論から言えばアパートを購入するなら(コンドミニアムはありません)、車を持っても余裕ですが借家では夏の間以外はかなりきついというのが現状です。

食材は大豆、小豆等を原料とする味噌、豆腐類は入手できません、けれど醤油については数種類があります。

畑は少しお金を出せば簡単に借りられますので大豆などを自家栽培して豆腐や納豆、味噌を作る事も出来ます、明確な四季のある気候がそれらに適しているからです、但し雨量が少ない地帯ですから散水は欠かせません。

ブルガリアの金融事情

過去３年間のインフレ率は2000年が11.3%、2001年4.8%、2002年4.5%といくらか沈静化しているものの予断を許さないものがあります。

一般的にインフレ率と預金利率は連動しており、この国の預金利率が5%前後あってもその利息で生活する事は困難であることは全ての国に言えることです。

今のところＥＵ加盟を目指す国に対してはユーロと連動しているので、其れほど心配は無いが、いよいよ加盟ということになれば当然調整をされるので大幅な切り下げが行われ財産を失う事になる可能性をはらんでいます。

この国に口座を作ることは在住を条件としていませんから簡単に出来ます。

この国からユーロのような外貨を持ち出すときは、かなり厳しい制限があると思いますが詳細は知りません、最もユーロ加盟後はこの制限は無くなる筈ですが。

いずれにしてもこの国の医師の給料が2万円前後ですからそれほど心配する事はありません。

この国の在留ビザ

観光目的の滞在は30日までは不要です、90日まではブルガリア領事館で手続きをします、この手続きはギリシャやオーストリア、ドイツなどでも取得出来ます、日本の地方在住者の場合は日本でとるより安く済む場合があります。

ギリシャのテッサロニキでは6ヶ月のビザ取得もシプカ在住の高田逵氏の尽力で可能になっていますが、どの領事館も日本以上のお役所仕事、気長に構えていないと体に良くありません。

この国にも退職者ビザというのがありますが明確な資料は知りません、極端に言えば領事館担当者の腹一つというような面も排除できません。

やはり官僚国家というものは袖の下やコネから逃れる事は出来ないのでしょうね、最も日本もよその国の事をどうこうと言える義理ではありませんが。

もう一つこの国には外国人法というのがあって、外国人が滞在する場合アパートや知人宅に宿泊する場合、48時間以内に部屋の貸主と共に住所地を管轄する最寄りの警察署に出向いて「滞在届」を出す必要があります。ホテルに宿泊する場合は、ホテル側が手続きをします。

また、「滞在届」、「ホテル宿泊領収書」については、出国審査を受けるまで保管する必要があります。

АДРЕСНА КАРТА ЗА ЧУЖДЕНЕЦ Стат. карта №

ЕНЧ

имена по реда на изписване в документа за самоличност (на латиница)

Роден на/Born on Държава/Country

Паспорт/Passport № Издаден от/Issued by държава/Country

Гражданство/Citizenship Цел на пребиваване

Влязъл през КПП на дата

Разрешен престой в България

Само за частни квартири

област, община, населено място

точен адрес

Домакин (на гостуващ) имена по документ за самоличност

дата на раждане гражданство пол ЕГН/ЕНЧ

Регистриран в: наименование, населено място

Стая/ап № личен щемпел

Регистриран на: дата до дата на заминаване

アドレスカルタ

ブルガリアの医療事情

残念ながら旧共産圏全てに言える事ですが日本を含めた先進国と比べた場合、都会で30年、地方では40年前のレベルといえます。

全ての予算不足で施設も設備も老朽化が甚だしく医師の技術も決して高いとはいえません。

照明も切れたままの院内

もう一つ日本のような受付がありません、目的の診療科を自分で探し、順番を待つ人一人一人に誰が最後か聞いて回る、やっと順番が来てもブルガリア語かドイツ語しか話さないので通訳が要る、終わったら直接医師に料金を払ってメモのような薬の処方を貰う。

もし病気になったら首都ソフィアかオーストリアやフランスに行く必要があります。

年金が月3千円しかないのと17%の失業率は、医者に行くことは甚だ困難、更に富裕層は殆ど先進国に行ってしまう、このことが医療全般に大きな影響を及ぼしていると考えられます。

その他

ブルガリアも東南アジアと同様、外国人を必ず利用しようとする、そのために近づいてくる人は珍しくない、親切とを見分けるのは難しい。

自然のいっぱい残る田舎は魅力的ですが、それなりのリスクが伴う事を理解する必要があります。

最後に多大な援助を頂いた高田遼氏ご夫妻に、紙面をお借りして、心からの謝意を申します。

高田氏のＨＰ

http://www.geocities.co.jp/SilkRoad-Lake/3786/index.html

海外でゴルフ

マレーシア

No.495 石原 彰太郎

ペナン州の南に位置するペラ州のゴルフ場を案内します。ペラ州の中心がスズ鉱山の町として有名なマレーシア第４の都市イポーです。ペナンから約120ｋｍ(南)くらい、クアラから約220ｋｍ(北)くらいに位置します。ここに幾つか綺麗なゴルフ場があります。

１．クリアー　ウオーター　サンクチュアリー　ゴルフ　リゾート

Clear Water Sanctuary Golf Resort

イポーから約30分くらいの所にあり、スズを掘った後の池を利用して造ったゴルフ場で殆どのホールに池が綺麗に取り入れられています。また池には綺麗な蓮の花がさいておりプレーヤーの目も楽しませてくれます。他の見所としては池に向かって打つ練習場、池の湖畔に造られた静かなロッジ。ゴルフ以外にも釣りが楽しめる所で、私もここのロッジに泊まった時に部屋のバルコニーから鮒の様な魚を釣りました。

グリーンフィ：　平日RM87　週末RM131

電話)05-366-7433　ファックス)05-366-7434

URL:www.cws.golf.com.my

２、ダマイ ラウ ゴルフ＆カントリー クラブ

Dami Laut Golf & Country Club

イポーから約１時間くらい海に向かったところにルム(Lumut)と言う港町があり、そこの海岸沿いにあるゴルフ場でリゾートホテルも隣接しています。以前にペナンの木村支部長のレポートにも有ったコースです。海辺のホールや海に向かって打つ様なホールも有り、思い出になるコースと思います。ゴルフした後にリゾートホテルでゆっくりとくつろぐと言うのがお勧めです。

グリーンフィ：平日RM100 週末　RM150

電話)05-618-1019　ファックス)05-618-1018

URL:www.swissgarden.com

チェンマイ滞在記

愛知県在住 会員No. 487 横井 保夫

何故チェンマイなの？

我々夫婦は2003年7月17日から妻は8月24日まで私は9月8日までステイ致しました。其れは近い将来にロングステイ先としてチェンマイが本当にふさわしいのかを見極めたいのが目的でした。そもそも何故チェンマイかでありますが、昨年(2002)1月に、約30年前に妻と幼い子供4人で住んだクルンテープ（バンコック）に、子供達も成長して我々夫婦の手から離れた今一度行ってみて昔を懐かしみたいと云う気持ちで出かけたのですが、30年ぶりのバンコックの変り様には驚かされました。其れは30年前には高層ビルはほんの数えるほどしかなかったのが今ではまさに高層ビルが林立し我々が住んだ閑静なスクンビット（ソイ15）の住宅街がビルの谷間に沈み夜は賑やかで喧騒に包まれた歓楽街に変っていたのでした。それでも、昔懐かしいルンピニ公園やサイアムインターホテルの裏庭で“鴨さんのお通り”を眺めた昔を懐かしむ事は出来ました。でも、もの凄い交通量による排気ガスでくすんだ町並みには失望いたしました。

それからチェンマイに飛んだのでした。そしたら昔のクルンテープがチェンマイにあった様に思えました。其れがその時は何であったのか良くわかりませんでしたが、ナイトバザールでの買い物時の値引き交渉やトクトク(オート三輪で昔はサムロウと言った)の運ちゃんとのやりとりをしている内に“ウン、これだこれだ”と云うものが戻ってきたのでした。

またその時に出会ったのがバーンチェンノイと云うゲストハウスを経営されている大八木さんで、奥さんがノイさんと言うタイ人でガイドをしておられ、カントーク(タイダンスを見ながら北タイ料理を楽しむレストラン)でたまたま隣の席に座っておられ、話しかけたのがご主人たる大八木さんと知り合ったきっかけでした。大八木さんには買い物や食事にお付き合い願い、いろいろと今のチェンマイについて教えてもらいました。その後、大八木さんとはチェンマイの親戚のようなお付き合いをして頂いており、その後チェンマイに行くたびに荷物を預かって日本に帰るようになりました。

南国暮らしの会に入会

その後４月ソンクランの水祭りのころ私がジャカルタからチェンマイ入りをして日本から妻が来るまで約１週間一人でゴルフをしたり、町の中をぶらぶらしていた時、ソンクランの水を頭から浴びせられ逃げ込んだIKUさんという日本料理屋にて出逢ったのが南国の会の長老で顧問をされている寺前さん（NO. 32)でした。

お年とも思えぬ、かくしゃくとしてお一人で北タイを回っておられるバイタリテイーとスケールの大きな人生観をお持ちの寺前さんにすっかり感銘を受けてしまいました。前述の大八木さんをご紹介し私と妻と寺前さんと４人で孤児院を訪れたり、寺前さんの　戦友が眠るお寺を訪れたり、道端で一緒にドリアンをほおばったり、メーピンホテルの名物しゃぶしゃぶを食べたり、本当に楽しい時間を過す事が出来ました。

これが私が南国暮らしの会に入るきっかけになるとはその時には解りませんでしたが、帰国後南国暮らしの会理事の酒匂さん（NO. 24）よりお電話を頂き、私も南国暮らしの会のメンバーに入れてもらうことになりました。

その後昨年11月にチェンマイにゴルフ好きの兄夫婦を案内した折にチェンマイ支部長鈴木さんご夫妻と甲信越支部長の宮沢さんご夫妻にメーピンホテルでお目にかかることが出来ました。お話を伺っている内に、チェンマイにロングステイされている他の皆さんが生活を楽しんでおられる事を知ることが出来ました。

又ゴルフ場もその時はローヤルチェンマイ、グリーンバレイ、ランナーにそれぞれ一回ずつ兄夫婦を連れて行きましたがキャデイが一人ずつ付き日本では味わえない贅沢なゴルフを安く出来る事に驚いていました。ビジターでも一回平均3000円でした。

又この時に滞在したメーピンホテルはテレサテンが自殺したホテルで知られているが、とても

衛生的で食べ物も美味しく且つ安い(ちなみにメーピンカードのメンバー1000バーツ(3000円一年有効)であればお昼のバイキングが一緒に食べた人は一人120バーツ(360円)でした)。
ゴルフのない日は,ミヤンマー／ラオスと接するゴールデントライアングル地方やメーサイとかチェンライへのドライブや、象のキャンプでの象のりトレッキングやいかだくだりで子供に帰ったような楽しい遊びが出来ました。

寺前さんとスイカ売りの前で

チェンマイプラザの３日間

これらの前歴があって、今年7月17日に今回はいよいよ本格的にロングステイらしく暮らしてみようと意気込んでチェンマイ空港に降り立ったのでした。パスポート上に観光ビザを日本で取って行かなかったので、入国時に30日滞在許可された。飛行機切符HISの名古屋-チェンマイ60日行きFIX帰りOPENで8万円。
予約をしてあるのは17日のチェンマイプラザだけを前述の大八木さんに取ってもらいました。(正規レートは2000バーツの所を1400バーツで2人一部屋朝食つき)
日本人の宿泊客に一番人気があると言われている。確かに他のどこのホテルより日本人を見かけました。

右のソイ(路地)を入った所に蜂蜜専門店があるがそこではマネーチェンジャーもやっておりかなり有利なレートで円ないしはドルをバーツに変えることが出来ました。またその横にはカオサンと云う日本語で注文出来るタイ料理屋がありました。又その隣のタイ式マッサージ屋は“カオサンのカオできた”と言うと特別値段で出来ました。又、近くに“旭”と言う日本料理屋がありてんぷら定食がボリュームたっぷりで美味しく値段も安かったと記憶しています。

ナイトバザールにも歩いて5分であり又120バーツでバイキングの昼食が食べられるメーピンホテルにも近いので、このチェンマイプラザとメーピンホテルは短期中期でホテルに泊まる予定の方にはお勧めです。
南国の会チェンマイ支部長代理の八巻さんと連絡をとったところ早速チェンマイにステイされている皆さんに集って頂いて“旭”にて夕食会をしていただきました。

メーリングで御なじみの阿部さん、最近ロングステイで来られた深見さん、チェンマイ3年の伊沢さん、日本語の先生の宮さん、八巻さん宅に滞在中のゴールドコーストの山本さんと東北支部氏家さんにお会いいたしました。
それ以来皆様にはチェンマイ市内のあちこちで出会い一緒に食事をし、情報交換井戸端会議に参加、又ゴルフにお付き合いを頂き大変有意義な毎日を送らせていただきました。

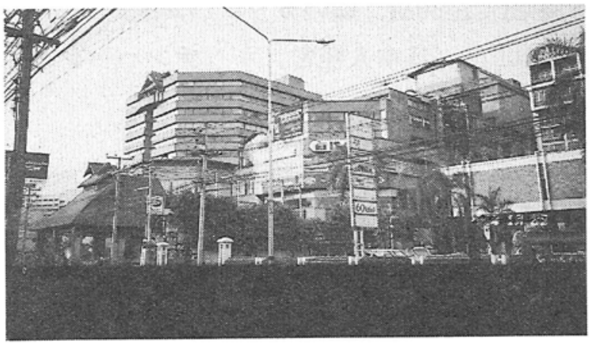
ロータスパンスアンケオ ホテルの一ケ月

居心地の良さから、結局チェンマイプラザには３泊も暮らしましたが、宿泊代をもっと安くしなければ今回の旅行の趣旨に反するということで、ホテルをチェックアウトし、レンタカーに荷物を積んだまま次の宿泊場所を探して回る羽目になってしまいました。

パシフィックマンションは昨年一泊500バーツで泊まった事があり良かったのでそこに移ろうと行って見たが満室でした。ドイピンとかナコンピンとか日本の方達が入っているめぼしいアパートを回ってみたがミニマム６ヶ月条件とか空き部屋がすくない状況で、レンタカー運転手のオレー君の奥さんのオムさんがマネージャーを良く知っていると言うロータスパンスアンケォホテルを見に行った所、セントラルデパート奥にあって買い物に絶好な、又、50メートル

プールや映画館まである客室800もある値段もチェンマイプラザ並のホテルだが、一ヶ月分前金でなら一泊500バーツ即ち一ヶ月15000バーツ(45000円)でOKと言う。即刻手を打ってそこに一ヶ月泊まる事にしました。

11階の窓からドイステープ(チェンマイで最も大きく有名な山の上にある金色の寺院・)をそこから眺めて暮らすことになりました。このホテルは日本人客は少ないが韓国/台湾/中国/バンコック人の団体客が多く泊まっていました。又色々なイベントやパーテイをやっておりましたのでお客を装って覗いたりしていました。御蔭で色々な屋台料理を只でご馳走になることも出来ました。又、センタン(セントラルデパートのことで、地元ではセンタンと言わないと通じません)に接しているので大抵の物はここで買うことが出来ました。前のタノン(大どうり)を挟んだ向かい側にはｲﾝﾀｰﾈｯﾄカフェや90番と言う日本食堂、レモン(タイ料理)、台湾小館(台湾料理)、サンフランシスコ(アメリカン喫茶)どれも安くて美味しい店ですので簡単な食事やお茶なら全て間に合わせました。また、誰か彼か知っている人たちに出会ってにわか情報交換会に発展したのもここでした。



ロータスパンスアンケオホテルとセンタン

コンドー捜し

次に、今回のチェンマイ滞在の最大の課題である“将来ロングステイ時にどこに住むか”であります。

ホテル住まいは短期/中期ステイには良いがロングステイとなるとやはり台所つきのコンドー(コンドミニアムのことを云う)あるいは一戸建ちとなるが、チェンマイでは3食共外食をする人が多い為か、台所付きのコンドーとなるとかなり制約を受けることになり、台所なしが一般的です。

健康なる食生活を送る為には台所つきは必須条件としてコンドー探しを始めました。

そういった条件を満たす物として見て回ったのが下記のものです。

(1)ナコンピン:センタンデパートやラムホスピテルに近い便利さナンバー1.　甲信越支部宮沢様が長期で借りておられ我々がいたときはそこに関東支部野田様が入っておられました。広く家賃もあまり高くない羨ましいほど快適なコンドーでした。

(2)フローラル::ピン川近く又チェンマイ駅に近い清水建設がバブルの頃建設した高層コンドー。もと映画監督の北條さん御夫妻が入っておられました。又ガイヤの夜明けで中西さんご夫妻が紹介をされていました。家賃月25000バーツはちょっと高い方に属しますが、テニスコート、プール、卓球台、ビリヤード台(CLLダンス教室に使用していました)。ここは希望者殺到のようです。

(3)リンピン:ピン川沿いで上記フローラルに近い高層コンド・。家賃月25000バーツ。部屋の作りはフローラルに似ている。

(4)ドイピン:チェンマイプラザ裏にありナイトバザールにも近い便利な所。2DKが、月7000バーツは安い。タイミングが良くないと入れない。

以下の物件は、HIRO THAILAND CO.,LTDの天野さんに紹介を受けてみて回った物です。(この会社はチェンマイにおけるコンドーの販売、リース、ウイークリ・マンション専門会社で天野さんとは同郷名古屋のよしみで　色々お世話になりました。TEL 0-5389-2180 携帯09-9510818
E-MAIL　hiro@chmai2.loxinfo.co.th

どうぞコンタクトしてみてください。色々教えてくれるはずです。

(5)シービユーマンション::台所付きワンルームマンション　付き1万バーツ

(6)チャンクランレシデント:同じく、但しプー

ル有り。
(7) ヒルサイドコンド･テル4:センタンに近い大きなコンドーで、下には本屋や赤門という日本料理屋があり日本企業駐在員の社宅が多く入っている。台所付きワンルーム45Mで1万2千バーツ。他にもっと大きな部屋も。
(8) ドイビュー:天野さんのオフィスもここにあります。

1階･4階はサービスアパートでホテル形式。一泊500バーツより。5階･9階は販売または月貸しで、まだ工事が完成していませんでしたが、当時はセールスプロモーション中でした。英会話、タイ語教室もありました。センタン、ヒルサイドコンドー4、アマリホテルに近い閑静な住宅街にあります。
チェンマイにいかれたら一度見に行ってください。
以上が,我々が見てまあまあと思った所ですが、勿論他にも良い所が多数あります。
チェンマイでコンドー探しも楽しみの一つですので先輩諸氏を頼って探してみてください。

レストランと喫茶店

レストランについて、我々が行った又は連れていってもらったレストランでこれなら推薦できると思った所を下記列挙します。

中華料理:

* 名前を忘れましたが、チェンマイプラザのまん前の路地を入った所にある。カウパットプー(かに焼き飯)
* オーキットホテル内の中華料理(お昼の飲茶定食)
* 御棚円{ぎょほうえん};チェンマイランドに入る路地の前(餃子)

タイ料理:

* カントーク(タイダンスを見ながら北タイ料理を楽しむレストラン)は何処でも大差ないが、安くて美味しかったと思ったのは“HEANKAJOA”{TEL 262905}又はチェンマイランド近くにあるKANTOKE PALACE。
* エアロタイレストラン:

ここは南国の会の皆さんと2回ほど行きましたが、美しい池のほとりにあり、対岸の明かりや夕日や月を水に映す幻想的且つロマンチックなレストランです。
食べ物も美味しく推薦銘柄です。場所は八巻さんご自宅の近くにありますのでお尋ねください。

日本料理屋

* 旭(あさひ);(チェンマイプラザ近く)
* 月光;(ナイトバザール近く)
* さくら;(ターペー門近く)
* のんべえハウス;(パシフィックマンシオン近く)家族的雰囲気の憩いの場、何か情報がえられるところです。
* キッチンハッシュ;(コンド･フローラルの近く)
* 道ずれ;(エンプレスホテルの近く)
* 90番;(センタン前)
* 赤門;(ヒルサイドコンド･テル4の下)

この他沢山あります。

美味しいコーヒーの喫茶店は下記がお勧めです。

* サンフランシスコ;(センタンの前)
* カフェ　マニア;(チェンマイプラザホテルを出て左50M，蝶のカップが素敵)
* GIULIA（日本人経営、キッチンハッシュの近くTEL 053-244835)

プアン コンタイ(タイの友人)

タイ人の友人について信頼できる人たちを紹介します。

* オレイさんはレンタカーの運転手です。昨年一月にチェンマイに行ったときに知り合ったのですが、その後チェンマイに行くたびに我々の自家用のように特に郊外に遊びに行く時など手伝ってもらっています。
チョット恥ずかしがりやで押しがないのですが、誠に正直な気の良い男です。日本語に弱いので目下勉強中ですが、奥さんのオムさんは英語が上手いしタイ語の先生もやってくれます。助手席に乗ってガイドをし

てくれます。

我々が泊まったロータスホテルもオムさんにお世話になりました。

ウムさんと云う可愛い２歳前の女の子があります。運転手つきのレンタカーがご入用でしたら是非声をかけてやってください。横井の友達と云って頂ければOKです，何かと面倒を見てくれます。{TEL 053-386696, 携帯01-9524283}

＊ スワンさんはドイビューマンション経営者です。HIRO-THILAND　天野さんの紹介ですが誠にフランクでまじめな人柄に惹かれました。スワンさんも我々を家族として扱ってくれています。妻が先に日本に帰った後私は8月24日-9月7日ドイビユーで過しましたが夕食は殆んどスワンさん家族と一緒でした。美人の奥さんとアメリカ黒人の子供の里親になって可愛がって育てておられました。(TEL 053-895567)

チェンマイでの生活

早朝の散歩は誠に気持ちの良いものでしたが、只、犬が多いことには閉口しました。
この国ではまだ狂犬病があり殆んどの犬はワクチンを打っていないので、散歩に行く時には棒切れを持つか石を２−３個ポケットに入れて出かける必要がありました。どんな小さな犬でも噛まれたら直ちに医者に行く事が必要です。

又、信号と横断歩道が少なく車優先社会で、道路を渡るときは特に気おつける必要がした。
ゴルフ、卓球などで汗を流した後のマッサージは格別で病みつきになってしまいました。
また　、出合った人たちとの、安くて美味しい会食と情報交歓井戸端会議も又楽しいものでした。

ある日チェンダオ(星の町)に出かけましたが、途中お温泉に浸かった水牛を見たり、道端で売っている温泉卵、竹ずつに入ったもち御飯、たけのこ蒸し{バンブーシュー}をほうばったりしました。皆とても新鮮で美味しかった。

一度ビザ切り替えの為ラオスに出ましたが、国境を越えたとたんにガラっと変る環境は30年前のバンコックを思い出させました。物乞いとガタガタ道、質素な身なり、共同井戸、バイクのタクシーなどなどがまだありました。
８月の終戦記念日にはチェンマイで合同慰霊祭も行われましたが、バンコックからも大勢の日本人が来られ線香をて向けられていました。
我々も元日本兵の人たちと出会い60年経っても戦後がつずいていることを痛感いたしました。
日本の平和を祈らずにはいられませんでした。
８月のお盆の頃には南国の会の佐藤さん御夫妻や小林さん御夫妻もチェンマイに来られ一層賑やかになりました。声を掛け合い一緒にゴルフ、会食、タイダンス、コンド･探し、博物館などを一緒に楽しむ事が出来２倍にも３倍にも楽しい思い出となりました。

又池田理事長もチェンマイ入りをされバイタリテイあふれた行動力に驚かさるとともに我々も大変励まされました。ガイヤの夜明けで一躍人気浮上の伊沢様には人柄あふれるユーモアと、帰る当日まで気をつかっていただいた事、本当に有難うございました。

今回は、ホテル住まいでしたが次回は台所付きのコンドーで食材も何が出来るか期待しつつ、又もう少しタイ語も習いたいと意欲を持って、次なるロングステイに望みたいと思います。ロングステイをされている我々が出合った人たちが気持ちのいい優しい人達であったからでしょうか？きっと微笑みの国タイのチェンマイにいると心が優しくなるからでしょうか？

ダバオよいとこ・一度はおいで

宮城県在住 会員No. 467 渡邊 英勝

私がダバオを初めて訪れたのは10年程前になります。朝、成田発9時30分PAL(フィリピン航空)に乗りマニラ現地時間13時頃着いて国内線乗り換えの為移動。これがまた大変！何処へ行っても「しゃちょさん、しゃちょさん(日本人は社長さんと呼ばれると喜ぶと思っているのかも？)キモチ、キモチ」何を言ってるんだ、と一緒に行った友人に聞くと チップをくれとの事、ノーと言ったらすぐ去ってしまった。

[今はNAIA(ニノイ・アキノ国際空港)が出来て荷物の移動もすぐおわり空港ビル外に出る必要がなくなった]

国際線から国内線乗り換えの為バスに乗り込み30分、やっと国内線に着いた。出発時間になってもなかなか搭乗案内がない。どぅなってるのかと友人にまた聞くと、ゆっくり行きましょうと言う。どうもせっかちな私、いらいら・・。

やっと出発し一時間半位で着くなぁ～と思っていたら、雷で降りられないのでセブまで戻り緊急着陸すると云う。これはラッキー(セブ空港も観れるかな)と思いきや、何と飛行機の中にスタンバィとの事、なおかつエアコンもストップ・暑いわ、いらいら・・約2時間後やっと出発し、ダバオに着いたのが午後11時を廻っていた。

午後6時に着くはずだったので迎えは帰っただろうな、と友人と話していたが、何とみんな待っていてくれた！あの時の嬉しかった事、今でも忘れられない・・・

ダバオの友人達がホテルでのパーティを用意しておいてくれ、5、60人位の大宴会になってしまった。時間と疲れを忘れさせるバンブーダンスショーだった。床に入ったのが朝方だった。

起きたのが昼近くになり、午後1時にウォーターフロントインシュラーホテルから出るバンカーボートに乗った。サマル島パールファームビーチリゾートまで45分、着いたとたん目を疑った！！！・・・・こんな素晴らしい景色は初めて見た・・・・
青い空、透き通ったエメラルドグリーンの海、白砂のビーチ、どれをとっても最高・ディバァ(ですね)！・・・・

夕焼けがまた素晴らしい景色だった。サマル島から見えるアポマウンテンもきれいだった。夜は民族衣装を纏った男女の踊りを観ながらまた宴会だった(今はショーはしていない様ですが)。コックが焼いてくれるバーベキューも旨かった。

翌朝はジェットスキー初体験。インストラクターから、止まったままハンドルを切りっぱなしにしなければ転覆はない！と教えられ、 おそるおそる出発進行・・おぉ～なかなかおもしろぉ～い・・・・(この日からやみつきになってしまった)

サマール島パールファーム

サマル島にはパールファームからボートで南に20分行った所にサマルカジノホテルがある。1000室あると云われている、数えた分けではないので確かかどうか？

4年前に一度だけ海沿いの部屋に泊まった事があるがいいところだ。 残念ながら今は閉鎖されている。あんな立派な施設を使わずにいるのはもったいない話だ！！！・・・

サマルカジノホテルの向かいにはタリクド島と云う小さい島がある。ダバオとサマル島の間にあり現地人が楽しむ海水浴場がある。ここもホワイトサンズである。9月の旅行の時は、パールファームでクルーザーをチャーターしてこの島を一周してきた。

ダバオの周辺も紹介しましょう。
ガイドブックでもおなじみのフィリピンイーグル・ネイチャーセンター(入園料25ペソ)、マラゴス・ラン園、ジャパニーズトンネル(日本兵の蝋人形が待っていてくれる)、クロコダイル・パーク(蚊が沢山いるので半ズボンは避けた方がいい)、エデン自然公園(入園料ランチ付き300ペソ)、プラハの幼きイエスの神殿(車で1、2分の展望台からはダバオの町とサマル島が一望できる)、アポ山(標高3143m)、などいろいろ観る所もある。

ゴルフ好きにはアポ・ゴルフカントリークラブ、ラナン・ゴルフクラブ、パロス・ベルデスクラブなどがある。プレー代(アンブレラガール、キャディ含)1500～2500ペソで遊べる。

ダバオは果物の豊富なところでも知られている。バナナ(フィリピン人に言わせるとバナナは豚の餌だと云う。それだけ沢山あると言いたいのだろう)、ドリアン(路上で重ねて売っている。1個100ペソ、果物の王様だ)、マンゴスチン、ランブタン、ランソネス、ポメロ、パイナップル etc. どれをとっても美味しい果物ですね。

海鮮では、まぐろがかまも旨い、ジェネラル・サントスから新鮮なのが入る。もちろん刺身もある。 海藻の種類グソ、ラトゥも旨い。チキンバーベキューは、マグサイサイ公園近くに焼き鳥屋がある、マウンテンチキンを手掴みで食べるのがフィリピン流だ。

フィリピン料理で有名なレチョン(豚の丸焼き)私はちょっと苦手だ。子豚ほど値が上がるらしい、脳みそが美味しいらしい。・・私はご勘弁だ！！！

たまに日本食が欲しくなったら、浪速屋、富士山、鶴など数軒ある。

レチョン

ショッピングはガイサノ・モール、ＳＭ・モール、ビクトリアプラザ、ＵＣＣＣがある。
ホテルはマルコポーロ(一泊朝食付き2100ペソ～)、ウォーターフロントインシュラー(一泊朝食付き1700ペソ～)が一流ホテルになるのでしょうか。空港から送迎してくれるから安心。

前に紹介したパールファームビーチリゾートはボート送迎含み全食付きで一人一泊(4000ペソ～) 一般的なホテルは朝食付きで1200ペソ位で泊まれるはずです。長期滞在する時はホテルのマネージャーと交渉すれば安くなります。

両替所はマルコポーロホテルの向かいにあるアルデビンコ・ショッピング・センターがある。10月セブでのレートは10000円が5000ペソだった。ダバオは少しレートがいいかも！？

ダバオへの交通・・・今の私の手段はPALで成田発14時55分セブ直行便に乗る。セブで一泊し、翌日国内線でダバオに入るのが多くなった。南国暮らしの会を知ってからセブ支部長鈴木様に会えるのが楽しみだからだ。ダバオからの帰りもセブに一泊し、朝7時50分発成田行きに乗ると日本時間13時半頃に成田へ着く。私の家が宮城なのでその日の内に自宅に戻れる。

私はダバオでの日本人との交流は無いに等しい。仕事でつながりのある日系人家族、信頼できるフィリピンの友人家族がいるから必要はない。日本人だけで固まって生活するなど、フィリピン人に失礼だと思う。

ダバオは治安が大丈夫？とよく聞かれる。確かにテロがあった！ しかし、今はそのお陰と言ったら失礼だが、軍の取り締まりが厳しく

なった。ある人は云う。テロに会うのは交通事故に会うより少ないと・・・・私もそう思う。

我々の住んでいる今の日本はどぉだろぅ～か？

ストーカー事件、殺人事件、野菜・果物・米泥棒騒ぎまで、etc....

ちょっといいかげんなところ、今日を楽しもぉ～と云うフィリピン人が私は大好きだ。・・・・日本に帰って来て、すぐまたフィリピンに行きたくなるのは私だけだろうか？？？・・・

・・・・会員の皆様方・ダバオよいとこ、一度はおいで・・・・

メーリングリストからのミニ情報

会友を紹介します

No.101 広報担当 高澤 弘晃

今回は前回理事会（11月1日開催）にて承認されました、会友をご紹介します、今回は2名の方です。ご存知のように会友は現在、外国にお住まいで我々会員のお世話、情報提供を無償でお引き受けいただいてる方です。

① 山田 勝也様

山田様はフイリピンのマニラから北に車で6時間、標高1500メートル、人口23万人、山あいの町、年間平均気温20度C、夏の首都にもなる、フイリピンでもっとも人気のあるバギオにお住まいです、私も今年5月に訪問しましたが松林に囲まれた別世界にお住まいでした、一度皆さんも訪問ください、今回は会員の斎木様からの紹介です。

こんばんわ、山田です。

氏名　山田勝也　(1939年8月5日生)
　　　山田悦子　(1942年10月25日生)

住所　Block 7, Lot 9, Ciudad Grande Phase 2, Bakakeng Baguio City, PHIRIPPINES

TEL・FAX　63-74-446-5788

E-mail　baguiokjeb@aol.com

日本の住所　〒486-0937 愛知県春日井市細木町2-150

TEL・ FAX　(0568)32-7131

私たちは、20年前に長女が普通科高校に進学が決まった時から、３人の子供を大学に進ませたら我々の老後の資金が心細くなると考えておりました。自営業は浮き沈みが激しく、サラリーマンの時のように保証が無く、私共がいかに自衛をしても零細企業の身では追いつかない現実を知りました。その頃から漠然と、老後は物価の安い東南アジアで暮らそうかと話し合っておりました。

それが現実となり、今はフィリピンで５年半も暮らしています。

マレーシア・タイ・台湾etc.と近所の三菱系の事業所に、一年ずつ研修に来た人と親しくなっては知識を仕入れては旅行に出かけました。まだその頃は、フィリピンは入っていませんでした。

二人の両親を見送った頃に、仕事の関係で知りあったフィリピン・ケソン市出身の青年から、父親が弁護士で母の兄（スペイン人）がタガイタイに在住しているし、バギオ市も住みよい所なので訪ねるといいと言われました。また、フィリピン・パブでバギオ市を推薦され、計画している60歳までまだ４年もあるのでそのうちに訪比しようと考えていました。それが突然の妻の病気（脳動脈瘤の手術）で握力低下のため仕事はもってのほか、家事もままならなくなり、急遽事業を従業員に譲り、メードが雇えるフィリピンを下見に来てバギオの自然と安全が気に入り、医師の許可が下りるのを待って、退職者ビザを取得して予定の３年前に移住しました。今では、バギオを離れる気が毛頭ないほど気に入っています。

② 桑田 一成様

桑田様は現在フイリピンのセブにお住まいで昨年まで会員でしたが事情があり退会されました、しかし会のためにお世話することがあれば何でもいたしますと、先日お伺いしましたときにお聞きしてきました。

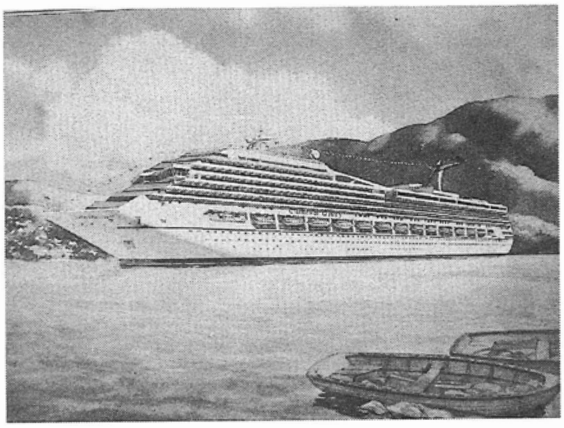
現在パソコンの勉強中です、近いうちに皆様とメール交信できればと話しておりました、詳細内容、連絡方法につきましては別途メールが開通しましたらご案内させていただきます。

カーニバル・グローリー号で行く 東カリブ海クルーズ日記

北海道在住 会員No. 625 工藤 俊一

ついこの前までは夢に過ぎなかった、東カリブ海のクルーズに参加できることになった。

われわれが乗ったカーニバル・グローリー号は11万トン、2, 974名定員、2003年7月に就航したばかりの新造船で、クルーズに対する期待を大きくもたしてくれる船に十分たる堂々たる船である。



カーニバル・グローリー号

一般的に外国のクルーズというと映画の世界に出てくるイメージで、豪華、高額、服装、食事のマナー等々面倒そうだ。とのイメージが付きまとうが、今回乗船した新造船は豪華で圧倒される大きさながら、みんなが気軽に楽しめる雰囲気を持ったそんな船旅が楽しめたと思う。

出　発

11月13日成田集合シカゴ経由にてオーランドまで。約13時間の旅を終えオーランド着。アメリカ本土近く太平洋上では気流の状態が悪く結構ゆれた。その日は南の会一同ホテル前のコンビニでビールつまみを調達。明日からの船旅に期待しつつ話が弾み10時過ぎまでパーティー。和やかに初日を終える。

2日目

この日は終日オーランド滞在日。朝食後三々五々それぞれが定めた観光をする。私たちは数人とシーワールドへ行く。大規模な水族館、アシカ、とど、シャチのショーと半日大いに楽しみました。入場料2人で105ドル。

3日目

午前中ケープケネデイNASA宇宙センター見学。まず入場するとき厳重な持ち物検査、ボディチェック、日本語音声翻訳機等の借りる煩雑さで等で、異常に時間がかかり見学時間を大幅に遅らせることになりました。

近代最新の宇宙基地にしてはその手続きの煩雑さにがっくり。

さすが宇宙船。実物を見たのは初めてでしたが、その大きさに圧倒されました。またこのセンター内はバスで回るのだがその広さは想像を絶するものでした。

13時には船上にて食事をしているはずが、乗船手続きに時間がかかり、乗り込み完了するかしないかの時間に洋上避難訓練が始まり、右往左往して所定の場所まで避難。

昼抜きで腹ペコの状態での夕食は本当にうまかった。

4日目

この日はバハマ、ナッソーへ入港。それぞれが目指すオプションツアーで島の観光をしたり、上陸ショッピングをしたりと一日を過ごしました。

上陸に当たっては、パスポートの写し、カード等で身分を確認後下船、さらに上陸地点でも動揺の確認が行われ始めて、町へ出ることができます。船といってもそこはアメリカの国なのですね。

さてここで船のことを多少説明しなければなりません。

まず乗船時に諸手続きのもとに個人専用のカードが渡されます。このカードは非常に大事なものです。このカード一枚で、部屋の鍵、VISAカード、身分証明書になるのです。従って部屋の出入り、飲み物を注文する時、下船、乗船、すべてこのカード一枚で済ませます。優れているのはカードナンバーを入れることによって、部屋のテレビで、船の中で支払った金額一覧を確認することができることでした。

夕刻期待の船長主催のウエルカムカクテルパーティがあり、着たことのないタキシードや、

女性の皆さんはキラキラと光り輝くイブニングドレス、着物などそれぞれにおしゃれしての参加。華やかな歓迎パーティー、夕食会、そして絢爛豪華なショータイムと十分に楽しみました。

5日目

前日夕刻より荒れ模様。11万トンの船も結構横揺れをする。今日は一日洋上なので朝はゆっくり。船といえば食べるものの楽しみ。朝の7時から夕方3時まで9階にあるビュッフェが朝食、昼食の場所。もちろんメインダイニングでも朝食がとれたそうですが、私はすべてこのビュッフェで済ましました。というのはここはバイキング形式で、自分でチョイスできるので面倒がないということ、時間が自由なこと、それに飲み物からデザートまで何でもありなのであえてメインダイニングでの朝食には行きませんでした。その他ビュッフェの隣にはピザコーナーがあったり、ビュッフェから一階上がった10階には中華風のスープも飲め非常に便利な場所なのです。

船内の様子

夕食はメインダイニング。ここはロビーデッキの3階にあり、われわれ南の会、それと一緒に行ったワールドスティの指定席が決まっており、毎晩この席での食事となります。メニューは日本語と英語の併記なので、注文も難しくはありません。それぞれ食事が終わる頃、突然音楽と共にボーイさんたちが踊り始めます。われわれも一緒に踊って腹ごなし？楽しいひと時です。

6日目

セントトーマス入港。それぞれオプショナルツアーを楽しむ。

さてこの日は、前日に予約していなかったもので、朝あわてて予約した。いよいよツアーバスが出発。ときれいな海岸に到着。なんと海水浴が主たる目的のツアーに参加してしまったらしいと気づくも、水着を持参してないため、気持ちよく海水浴をしている人たちをながめながら2時間を過ごすという思い出作りをしてしまいました。

世界で10本の指に入る有名なビーチで、ここで泳がないで何しに来たの？と一緒に行った外人さんに怪訝な顔をされ、笑われてしまった。やれやれ。

7日目

セントマーチン島入港。この島はオランダ領とフランス領とがひとつの島の中にあるユニークな島。両方の国を楽しむことができる。それぞれ当然ながら使われている言葉も違う。といってもオランダ語もフランス語もできないので英語で買い物ということになりますが‥。

8日目

この頃になるとようやく船の旅を楽しむ余裕が出て、船内限なく歩いてみたくなる。

サウナ、プール、カジノ、等楽しみは各所にある。またのんびり日光浴、読書でのんびりなどなど船の楽しみは際限がない。船長主催のさよならパーティー、皆さんまたおしゃれを決め込み、食事、楽しい会話、合間のダンス、テーブル付のウエイターたちと写真を撮ったり等で名残を惜しみました。

最終日、最後までクルーズを楽しみました。

船で使った明細票が届きました。オプション観光、飲み物を含め約300ドル。

帰国日、そろそろ日本食に飢え、オーランドではようやくバス(一日乗り放題3ドル)でたどり着いた寿司店が土曜日の為、閉店でがっかり、執念でモールの中で寿司店を見つけ高い寿司を買ったことなど、まだまだ書きたいことはありますが、一番書きたかったことは、この機会を通して、南の会の方々と親交を暖めあえたことが、このクルーズでの最大の収穫といってもいいかと思います。ありがとうございました。

中国雲南、大里・麗江の旅

（２００３年７月２４日～８月２日）

宮城県在住 会員No. 498 氏家　孝

チェンマイから昆明へ

チェンマイから中国に行けると聞いて、すぐにも行きたくなり中国領事館に行き、ビザの申請（1100BT）は、月曜日に申請して木曜日に出来上がる。(9月からは15日間のビザは不要) チェンマイ・昆名間, TG（7395BT）は週2便あります。

昆明

７月24日14：25チェンマイ発16：00昆明着（１時間の時差あり）。空港でATMで中国元を引き出そうとしたが、シティバンクカードがダメ、VISAカードもダメで、１万円を両替する。客引きの尼少君（26歳，男子、英語を話す、白タクの客引き）につかまる。市内まで１元バスで案内、重いバッグを持ってもらう。

200元で錦華大酒店に紹介される（ガイドブックには＄99～＄119とあり、フロントには800元と書いてある）。携帯電話の番号取り400元を彼に渡す（自分でお店に払えば良いのに）、ようやく番号がとれて日本に掛けようとしたらダメでした。よくわからないので、上海の涛嗔（仙台に留学時代に娘のように面倒をみていて4･5年前に帰国）に電話で聞いてみると、上海地区は日本にも掛けられるが、他地区ではこれからだとの事に納得。

翌日の「石林ツアー」に220元支払う。尼君にチップ100元渡す。ホテルは3ツ星位、部屋は17階､ダブルベッド、浴室は綺麗でした。お湯を沸かして、持参の味噌で味噌スープを作りパンをかじる。

石林ツアー

7月25日朝8:00にホテルに「石林ツアー」のガイドが迎えに来る、3ブロックくらい歩かされる。ミニマイクロバスに中国人三家族(湖南省双峰県政府役人)、大人5人子供4人、煙台の中学校の黄先生達（女性2人）と私で、お客さんは計12人、それに女性ガイドと運転手でした。

午前中はお土産屋3軒に寄り、なかなか「石林」には着かない。少6年位の女の子が「英語」で「なにも買うな」とアドバイスしてくれる。食堂で昼食、丸テーブルを囲んで皆で食べる、ご飯茶碗におかずを載せて食べる（取り皿がない）おかずは７品位、汁物１品。汁物を取る子鉢もないのでご飯に掛けて食べてる。日本人の私に親切に直箸でおかずを取ってくれる（自分で取るから良いョ)。お味はいまいちで、おかわりはしない。（半分まずい）でいよいよ「石林ツアー」へ。

民族衣装の石林のガイドが付く、65歳だと言ったら、パスポートを見せて？・・ゲートで「石林旅遊の入場券（公園の写真入り、プラスチック製、入場料55元と書いてある）を記念にくれる。小雨がパラパラと降り出し、「石林」では「弁当？忘れても、傘忘れるな」（あとの　傘忘れるな　は聞き取れた）と言われるくらい雨が多いそうです。（ホテルに傘をおいてきた）

石林ツアー、ガイド、小学生と

黄先生にはバッグを背負ってもらい、途中細い上り下りの岩山の道を女の子と先生たちに手を引いてもらいながらの見学でした。園内は広く、カメラスポットに来るとガイドが写真をとるように合図、またシャッターも押してくれました。お客も大勢で、迷子になりそうでした。雨は降ったりやんだりでしたが、帰りには晴れていました。夜７時頃昆明に到着。台湾系の中華食堂で，油条、豆乳とベーコン炒飯を食べる。

大理へ

7月26日（日）朝食小龍包2元、尼君迎えに来る。昆明空港まで1元バスで行き、中国銀行の

ATMで下げ金(郵便局のシティバンクカード)、帰りは2元バス(清潔、クーラー付き)で帰る。(中国では中国銀行のATMが日本のカード対応のようでした)錦華大酒店の隣の昆明バスターミナル(北京路)から、10時発高速バスで大理下関へ(103.5元　エアコン、ミネラル水付き、トイレは小のみ)、途中峠越えがあるも、ガスが掛かっていて何も見えず。

13時頃食事トイレ休憩、トイレ2角、食堂で食欲おきず(きたなくて)、白桃5元でガマンする。黄先生からメイルあり。(日本人の1人旅だから気をつけろ！)15時40分大理下関着、交通飯館を探すが、通行人に聞いたら近くの下関飯店(旧館)も同じクラスだョと教えられる、(1泊100元、冷蔵庫なし、床の絨毯汚い、2ッ星以下か？)そこに泊まる。

町にネット屋を探しに出かけたが英語はあるが,日本語はなしだった。水餃子と牛肉(12元)を食べる。パン屋でクッキーを買う(バスの中で食べ物がなかったから)。明日の大理古城・屑海ツアー(170元)をホテルのフロント脇の旅行デスクに申し込む。町に買い物、肉まん1元、リンゴ3元、ぶどう6元、IP電話11元、デパートのバーゲンで開襟シャツ30元と80元、食料品を22元買い込む。

大理古城・屑海(湖、プアル茶のアル)

7月27日　昨日買った肉まんに味噌をつけて朝食、7時40分ホテルのフロントへ集合、白族の民族衣装のお姉さんガイドがお迎え、韓国の張留学生達(女子2人組)とバスに乗り込む、市内のホテル数軒を回って，8時15分観光船に乗る。8時30分出港、張留学生達とデッキへ出るも雨が降ってきて船室に、船中のショウータイム、白族の歌と踊りを見て、涙がでる。

「白族の三道茶」で3種類のウーロン茶をごちそうに、船中で女子に按摩をしてもらう。(タイ族でシーサンバンナから10人位のグループで来て船上で商売をしている)20元。途中、3箇所くらい下船して、お寺や大観音を見学、露天のお土産や、果物やエビ・小魚を串にさして油で揚げたのを張留学生達と買い食いしながらの観光。バッグに下げる木彫りの人形をおそろいで

大里、白族の娘たちと

買ってもらう。上関に上陸、バスツアーになる。

ここで張留学生達とお別れです。昼食を孔学生達(成都の男子大学生3人連れ)3組の夫婦達と丸テーブルを囲む、隣の夫が親切におかずを取ってくれる。(直箸で)(中国のツアーはいろいろ、1日中、午前だけ、午後だけとか。「本当は場所・場所で値段がちがいます」胡蝶泉公園を見学、漢方薬工場で漢方医に看てもらい、心臓と血圧の薬を調合して貰い、買入。(1ヶ月分500元)夕暮れ三塔寺公園を見学、孔学生達は入場しないで表で待っていた。

夕暮れに三塔が池に映って絵葉書のようでした。大理古城は暗くなってからです。石畳で両側はお店がいっぱいお土産やと食堂です。日本の浅草とどこかをまぜたみたいに賑やかでした。石林ツアーで一緒の煙台の黄先生達(4人に増えた)とメールで居場所を確認,(孔学生達のお陰、私はメールが出来ない)再会です。彼女達は古城近くに宿を取っている。明日再会を約して別れる。夜9時に下関のホテルに到着。孔学生からメールで、今晩の列車の切符が取れなかったので、明日の晩に帰るので、明日一緒に観光をしようとのこと。OKと返事。

大理古城

7月28日　10時ロビーに集合、雨降りの中、タクシーで大理古城へ、中国銀行のATMを探す。それから、宿を古城洋人街の「大理四季客媚」に取り(バックパッカーが泊まる、良い部屋もありましたが、広い廊下をベニヤ板で仕切っただけ、ベッドがあるだけ、布団が汚くYシャツを

衿カバーの替わりにして寝ました。

共同トイレはまあまあ、30元です。朝食は西洋人も多くバイキングで10元、トースト、ハムエッグなどがあります。）朝食へ、（私は肉マンを食べたが、孔君たちはまだ食べていない）テーブルが2ヶで小母さん１人の食堂へ、孔君が注文する。

小豆餡をチーズに包んで油で揚げたもの（甘くて、お菓子みたい）、鶏を蒸した鳥なべ、沙鍋魚（水槽の魚を料理、豚肉，白菜、きのこ、こんにゃく、豆腐、ゆば、川エビ、結構美味かった）、家常豆腐（中国語のラジオテキストに出てきた、硬い豆腐を薄くきり豚肉と炒めた）の4品、取り皿をもらって４人で食べる。食堂の小母さんの旦那が土産用のエキゾチックな絵を書いてるそうで、綺麗な絵を飾ってありました。

大里、食堂のおばさん

会計になり、ここは中国なので、彼等が主人で私はお客であり、主人がお客をもてなすのが中国流の作法とのことで、支払は彼等にしてもらいました。（日本人老人が中国人学生にご馳走になり、お土産に鹿皮の絵までもらいました。）雨の古城を4人で散策、途中煙台の黄先生達が、大理四季媚で待ってるとメールが入り宿にもどる。皆でコーヒー飲む。明朝私を迎えに来てくれることを約束して、黄先生たちは蒼山に観光にいきました。

夕方孔学生達は、成都に向け帰りました。（列車で19時間掛かるそうです。）夜は古城の賑やかな処の日本料理屋「太白楼」で親子丼10元、玉子がのって、たまねぎがたっぷり、豚肉もいっぱい、つゆがたっぷりすぎて「おじや」の一歩手前、スプーンで食べても良いぐらい、量は日本の大盛りでした。赤いローソクをテーブル毎に灯し、音楽をガンガン鳴らしていました。
旅人が、旅の情報を書き込んだ、「ノート」がありました。

麗江へ

7月29日朝　黄先生が迎えに、麗江まで同行動させてもらう。小型バス（30元）で麗江へ。（宿には40元と書いてあった）途中峠超えが有ったが、ここでも霧で景色が見えず、頭の黒い山羊や、牛の群れが道路を横切ります。3時頃麗江に到着、民宿の客引きオバチャン達に囲まれる。男先生が交渉、その中の１軒に決まり、汚い軽トラックで行く。

門を入ると、中庭を囲むようにトイレシャワー室、台所、部屋、洗濯室が三方にある。私の部屋は6畳くらい、ベッド、木机と椅子、コンセントだけ、寝具は真っ白で清潔そう掛け布団と枕は羽毛で気持ち良し、トイレ・シャワー室はコンクリート造り二部屋ずつ、トイレは2個の便器、間に高さ１メートルくらいの仕切りあり、トイレットペーパーは持参のを使用、タイも中国もごみ入れに入れる。

シャワー室は床はタイル、鏡があるだけ、衣類はフックに掛ける、前泊ホテルの石鹸・シャンプーを使用。黄先生たちは新館（コンクリート造り）の4人部屋で気持ち良さそう。

大里、黄先生たちと民宿の食事

遅い昼食を作って貰い食べる（おかず6品、汁物１品、取り皿がないのでご飯茶碗に、直箸でお

かずをのせて食す、ご飯が少なくなったところで汁をかけて食べていた(食事代8元、朝ウドンは2元、部屋代20元)。

シャワーを浴び、洗濯して一休み、夜の町へ繰り出す。石畳の道の両側にお土産屋、飲食店がビッシリ並んでいます。人通りが絶えず、夜遅くまで賑やかでした。一日2万人の観光客が訪れるそうです。我が民宿は(古城香格居客媚, xiang ge yun gestohouse of old town NO.2といい、8室位あり、ブラジル人2人、あとは中国の若いカップル、親子3人家族、老夫婦と若夫婦に子供など、二・三日泊まっては、行きます。私は3泊4日食事4食ウドン3食で110元でした。四方街から10分位の所にありました。繁華街の真中にあるユースホステルは1泊150元でした。繁華街のホテルの前の広場で毎晩7時ころから9時30分まで民族ダンス(町の人と観光客が手を取り合って、3・4重に輪になり踊りながら回ります、ホークダンスと同じ)が行われます。音楽は民族音楽で、1度聞くと虜になります、ゴミ収集車までそのメロディを流してきます。

虎跳峡・長江第一湾

7月30日、スターレットクラスの中古タクシー女性の運転手(大型バスもやってます)に客5人で、「長江の虎跳峡」(片側は崖の中腹を中旬に通じる道が通っています)狭窄部を流れが急流となって川中の岩を乗り越えて、流れます。岩が虎に、流れの様を虎に見立てたのか分かりませんが、圧倒されます。「長江の第1湾」(三国時代、諸葛孔明が渡ったところ)は川が湾曲して流れるだけです。

長江、虎跳峡

帰りに、長江の川岸の放牧地で、先生と馬に乗りました。お腹がすいていたのか、草を食べて目的地に行きたがりません、前足をたたいて、鼻息を荒くして、草を食べさせろ、との合図をします。御者がお尻をたたいて行かせます。30分で20元でした。

麗江市内

7月31日　市内にある「玉泉公園」を散策、入場料を払わずにペロンコ(仙台弁でだだで入場)門から大分離れたところから、小川を渡って坂道(階段もあり)を約3・4百米も上り(そのほうがよっぽど疲れた)頂上まで、麗江の町から遠くの山まで見渡せます。

下りに公園に近い所で2人男性社員が腰掛けて、山から下りて来る人のチェックです、男の先生は切符は捨てたョ、と鼻歌交じりで素通り、そのあとに続いて無事通過しました。(ハラハラドキドキでした)あとの女先生3人組は聞かれたかどうか、涼しい顔で降りてきました。公園の池のほとりを散策。

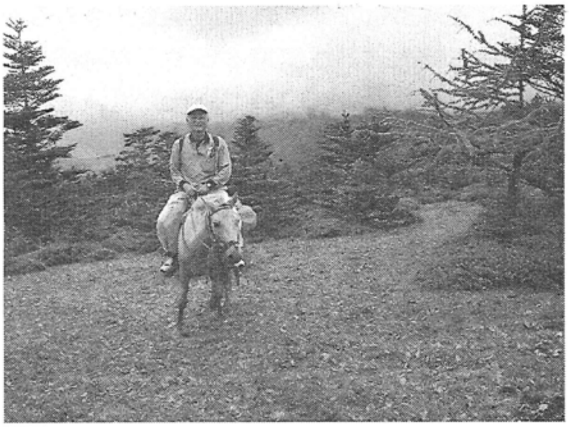
門前のお店で麗江の「小郭」(おやつ)の「パパ」(小麦粉の厚焼き、甘くておいしい)を食べ、新街を散策、タンホール(ゴルフボールくらいのりんご(みたい、満州ではさんざしでした)の小さいのに赤い砂糖飴をかけ、5個ずつ竹串にさしたのを、円筒状のわら床にたくさんさして担いで売り歩いています、1個3〜5元。子供(8歳まで中国、大連の近く、営口に住んでいた)の頃に食べたのを(味、中身は覚えていない)思い出しながら皆で食べ歩きました、焼きとうもろこしもおいしかった。

マンゴウを食べたことがないと言ったら、買って来てくれ、宿で食べ方まで教えてくれました。明後日の夜行バス「麗江〜昆明」128元の切符を買う。夜の町を散策、ダンスが終わってから男先生と食べた「パパ」は塩味で美味しくなかった。女先生たちとメールで居場所を確認(携帯電話の有難さを確認、打つのは全部中国人、私はそこまで出来ない)合流、夜店をひやかしたり買い物したり、お付き合いです。

玉龍雪山

8月1日、玉龍雪山行きです。先生たちは、費

用が掛かりすぎるので行かない、私１人です。朝５時過ぎ起床、７時前に、宿の老ママにタクシーまで道案内して貰う、一日150元でチャーターす。途中街頭で、肉まん（２個で１元）を買い、食べながら、入園料80元，通行料5元、１時間半でロープウエイに到着、62元、防寒コート20元、酸素35元、ロープウエイは2人乗りで待ち時間1時間弱、10分位で中腹の草原駅に、お土産やが並ぶ中を草原に、そこで40分馬に乗る(62元)（コースは30分から90分まで4コースあり、値段も色々、山のふもとが見える所で）山は雲に覆われて姿を見せませんでした。



玉龍雪山、山麓での乗馬

草原では貸し衣装やがあり、娘さんたちが民族衣装を借りて記念撮影です。草原は暖かく防寒コートも酸素も必要なしでした。ピクニック気分で弁当を持って一日居ても良いところかな、と思いましたが、お客はみな観光客ばかり（中国人）のようでした。帰りに玉龍雪山が少し顔を出しくれました。

ヒッチハイクの成都の女子大生2人が乗り込む、2個所ほど寄る、東巴神園（トンバ族の先祖祭りの会場）、ガイドが１人の客にも付き、ノートに書いて丁寧に説明してくれました。（あとで中国人に読んでもらいます）白沙の壁画も見ましたが、学がないので理解できずでした。夕方宿の先生から、メールで何処まで帰ってきたか？晩飯たべるか？と聞いてきます、女子大生に替わって返事してもらいました。朝タクシーに乗ったところで降ろしてもらい、宿の老ママとも会ったのですが、小道を間違えて迷ってしまいました。宿に電話して迎えに来てもらう。（携帯のありがたさをしみじみ）夕飯を１人で食べ、3泊6食代金110元払う。夜行バス（麗江～昆明）乗り場へ、

バスのベッドは3列2段で、180度水平で十分寝られます。（タイのVIPバスは4列１段リクライニングが30度くらい、足もとも狭く、肘は隣の人にぶつかり、寝た気がしない）夕方8時～朝7時までの11時間の旅でした。ここで煙台の先生4人とお別れです。

昆明

8月2日　タクシーで前に泊った、錦華大酒店に行ったが満室とのこと、尼少君を呼ぶ、青年路の経貿濱館（1泊300元、麗江の3泊110元とはえらい違いです）を紹介してもらう。四ッ星くらいかな、綺麗な部屋、バスタブにお湯をいれて、洗濯して、湯につかり、朝9時からの朝寝です。黄先生たちは、中学の先生達の会議（学会、大会）に出席です。（そのついでにこちらを旅行？かな）2日の夕方5時に気車に乗り4日に煙台に着くそうです（40何時間乗り続ける）。

昆明・雲南民族村

8月3日　朝9時半に尼少君が迎えにきて、空港に荷物を預け（10元）、雲南民族村（70元、地図3.5元、ガイド40元おもに英語）を散策、行き帰りはチャータータクシー（100元、尼少君の本職が客集め）で、村中で、オバーチャンと孫2人が木陰で涼んでいたのに合流、（昭通「バスで12時間はかかる」から来た、）5・6歳の女の子と写真をとる。分かれ際に「おじいちゃん再見」と言われました。尼少君に携帯電話し、迎えに来てもらい、昆明空港へ。TG チェンマイ・バンコク行きに乗り込む。

以上、雲南10日間の旅でした

東南アジア諸国見聞録 その4(最終回)カンボジアーII

埼玉県在住 会員No.40 平澤 信

バケン山からのサンセット

3月27日。悲喜こもごもであったプノンペンでの日程を終えて、国内線で50分のシェムリアップへ（シェムリアップ・エアウエイ)。

ここは、世界中の旅人がアンコールワットへ行くためにだけ滞在するような小さな街だが、ホテルも多く、スーパー（ビールなど酒類も販売）もあり、観光客の1/3が日本人と言われているところ。心身ともに疲れていたので、シェムリアップでは、ガイドのトム君の薦めに従って、日本人観光客も良く泊まるという1泊 15$(1,950円)のFREEDOM HOTELに泊まった。エアコン、テレビ、ホットシャワー、冷蔵庫付きの中々良い部屋だった。

この日、トム君が、アンコールワット本体を見る前に、バケン山に登って絶景を楽しんだ後、サンセットを眺めるのがコースになっていると教えてくれた。彼は、プノンペン大学の歴史学専攻の学生で、学者だった彼の父親も又、ポルポトに処刑されたため、家は貧しく、時間さえあればアルバイトをして家計を助けているのだと言う。たむろしているバイクを頼めば、シェムリアップ→アンコールワット間は片道 3$(390円)で行けるし、運転手を1日借りても5〜7$なのだが、トム君の身の上話を聞くうち、ここに滞在している間は彼をガイドに雇ってあげる事が、彼の役に立つような気がした。

因みに、彼のガイド料は1日 10$(1,300円)であった。人懐こくて、自宅の庭から甘い大きなマンゴーを持ってきてくれるなど、良く気のつく子だったので、毎日のお昼ご飯も奢って上げた。

バケン山への道は、急な坂道を登ること40分（普通の人は30分位らしい)。山頂には、アンコールワット初期の寺院があり、それが観光の目玉と言われているが、360度見渡せるジャングルや、トンレサップ湖の景色の方に私は感激した。沢山の日本人観光客にも出会った。

だが、西に傾きかけた美しい夕陽に、みんな背を向けて座っている。背を向けている日本の観光団には何故か聞きにくくて、カンボジアの青年に聞いてみた。答えは簡単。「夕陽に映えて、赤く染まるアンコールワットの全景を眺めるため」であった。残念ながら、この日は陽の入り直前に雲が掛かってサンセットは見られなかった。自然が相手ではこんな事もあるか！

一緒に夕陽を眺めた日本の若者達6人と、旅の情報交換をしながら、バケン山を下山した。この6人組は、東大理工学部の学生であった。賢そうな義雄君は希望どおり医学部に進めるが、幼顔の残る健太君は成績振るわず、方向転換をしなければならないと嘆いていた。嘆いている健太に対して、少し勝ち誇ったような物言いをする義雄。「人間死ぬ時までは分からない…云々。」と私は健太の肩を持った。が、バケン山を下りながら、初めて会った人に、人生の大事を嘆くなんて、この頃の東大生も幼くなったのかいのう。それにしても、この東大生達は「東大生の女は怖い」と言う。「東大生に限らず女はみんな怖いものだ！」と脅してやったら、バケン山が爆発しそうな大声でみんな笑った。

今回の旅では、東大生の佃煮ができるほど沢山出逢った。「男が怖いか」「女が怖いか」といった他愛もない話もしたが、日常生活の中で、東大生はもとより、若者と触れ合う機会などあまり多くはない。これも、旅の醍醐味というものであろうか。

庶民の生活が見えるトンレサップ湖

シェムリアップから、バイクで10分も走れば、バナナや椰子の木々の間から、竹で編んだような伝統的な高床式の家々が見られる。

トム君の説明によれば、ここに住む人々は、日の出とともに働き、日没とともに眠りにつくと言う。電気は付いている家もあるが、付いていない方が多い。電灯を引く引かないかは任意なのだそうだ。

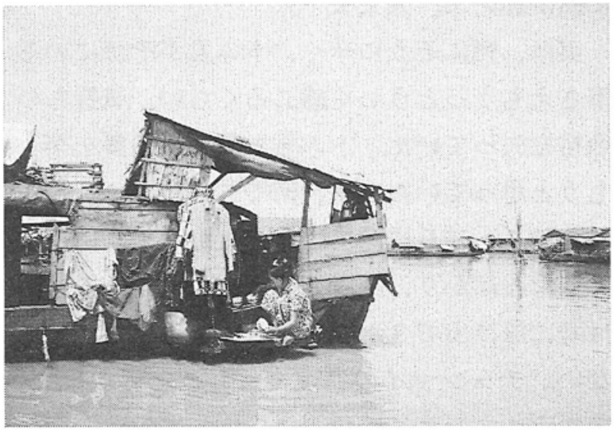
のどかな景色ではあるが、トム君のような土地の人と一緒でないと、旅人が一人で迷い込むと、食べ物も乗り物も無いと言う意味から危険

な気がする。１時間ほど田舎道を走ってもらった後、トンレサップ湖に向かった。

旅人にとって乾期は有難いのだが、数か月間全く雨が降っていないため、埃はひどいし、川も、湖の水も黄濁色に汚れ、魚の腐った異臭が鼻を突く。だが、地元の子供は、裸足でヘソを出し、汚れた川の中で遊んでいる。

この湖は、東南アジア最大で３万平方キロとトム君は言うが、日本の湖の何処に相当するか、私は分らない。巨大な湖には7,000人の水上生活者の家があり、ひとつの町が形成されている。小間物、野菜、スーパーのような店の他に、学校や警察、診療所、役場もあると言う。

住民の殆どは、ここで捕れた魚の売買を生業としていると聞いた。



トンレサップ湖の家々

湖の家々では、食器を洗っている隣で、子供がウンチしている、その少し離れた所でお父さんは顔を洗い、行水をしている。

旅人としては面白い風景であったが、暮らし振りとしては、貧しく、非衛生的な面だけが眼についた。同じ水上生活をするにしても、せめて、アムステルダム(オランダ)の水上生活のレベルにはならないものかと切に思った。

気温40℃以上もある炎天下で、小舟に満杯の小魚が積み込まれ、腐った匂いがしている。トム君は、「地元の人達は、この魚を漁礁にしたり、油で揚げて食べるのだ」と説明してくれたが、漁礁にしたり、油で揚げると腐った魚も食べられるのかしら？

我々がもう無くした、特別な免疫力(？)を持っているとしか思えない。本当に驚いた。

凄すぎるアンコールワットのレリーフ群

これを見たいがためにカンボジアまでやって来たと言っても過言ではない。

シェムリアップへ来て２日目。この日は９時に来るガイドのトム君が待ち遠しいほど早く支度が出来た。朝から少し興奮状態。

ホテルからバイクで20分。あの美しく荘厳なアンコールワットが目の前にあった。

アンコールワット遺跡の歴史や美術的価値については、沢山の専門書に詳しくでているので、ここに記すのはおこがましが、トム君の説明によれば、１２世紀前半、ヒンズー教(バラモン)寺院として造営された、クメール帝国・アンコール王朝の建造物の傑作で、日本人にも馴染の、ジャワのボロブドール遺跡とともに、東南アジアで最も注目される遺跡群であること。

シェムリアップだけでも主な遺跡が100以上もあり、丁寧に観るには１年掛かるとも３年掛かるとも言われていること。

フランス人に(1861年)に発見されるまでは、密林に埋もれていたと言われているが、密林で巨大なアンコールワットを発見したときの、ムーオーさんの驚きはどんなものだったかと思いを馳せた。学術的に価値ある物を発見したと言う喜びよりも、恐れ、おののいたのではなかっただろうか？ 団体客が引き上げた後の、夕暮れの中で１人観たバイヨン微笑みは、私には充分不気味で恐ろしい物に思えた。

バイヨンと筆者

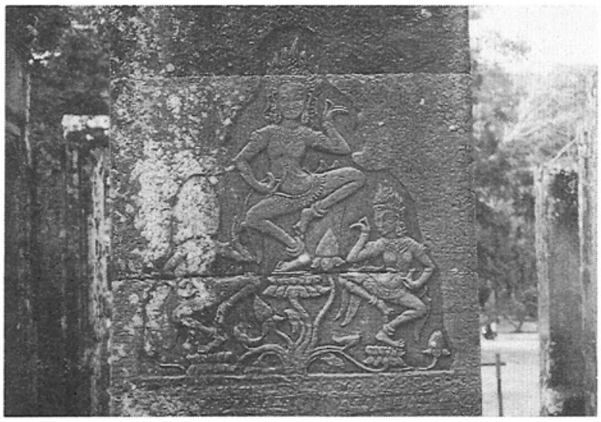
中に入って更に驚いた。建物もさることながら、数え切れないほどのレリーフ群(浮彫りの彫刻)には圧倒される。人間の生活の全てがレリーフで表現されている。大掛かりな戦いの様子、庶民の生活を表した台所の様子、物を食べる人、マッサージを受ける人、エロチックなものなど等を飽くことなく眺めた。

宗教的なもの、神話と、さまざまだが、一体、この壮大な、全体の施工図を誰が引き、どんな人物が陣頭指揮に当たったのか？また、レリーフを刻んだ人は芸術家か、職人か？興味は尽きない。

その昔、若い頃レリーフを創ったことがある。1人の人物を創るのに1週間掛かった。しかし、とても不出来で、人さまにお見せできる代物ではなかった。なのに、この躍動感溢れる無数のレリーフ群は、誰がどのように指導すれば、こんなに均整のとれた傑作が生まれるのだろうか？

作成に要した30余年の、見事に統制の取れた歳月がそこにあった。

カジュラホ(インド)のカンダーリヤ・マハデーブ寺院で見た躍動的で、限りなく色っぽいレリーフ群(決して淫らなものではない)を思わせるものがある。多分あの辺の影響も受けていると思う。(ご免なさい調べるのが面倒で…。)
美術に関心のある方も、全く無い方も存分に楽しめると思った。
実を言えば、この凄すぎるアンコールワットを、文章や言葉で表す術を私は知らないのである。



アンコールワットのレリーフ

凄い物を観たにも関わらず、ホテルに帰る道々ほろ苦い気持ちと、歯がゆい思いが胸を過ぎる。栄枯衰退はどこの国にも付きものであるが、こんなに凄い文化を持った栄光の国、カンボジアの民は、今なぜこんなにも貧しいのか？

原因不明の高熱に怯える

3日間通い詰めたアンコールワットの見物も終わりに近い夕方6時頃、気温はまだ40℃はあろうかと思われる暑さの中で、全身に寒気を覚えた。日中の気温は50℃を超えていたため、40℃が体に涼しく感じられるのかと始めは思った。だが、激しい下痢と、体の節々の痛み、全身の倦怠感は尋常なものではなかった。

トム君が、「お母さん！(彼はガイドをしている間、私をこう呼んでいた)お酒を飲んだように顔が赤いよ。大丈夫？」。

実は、死にそうに辛く、トム君がそばにいる事さえもうっとうしく感じるくらい、気持ちの余裕を失っていた。トム君と最後の晩餐を楽しもうと思っていたのに、何てこった！

ホテルへ送り届けては貰ったものの、体調は悪くなるばかり、医者へ行くにも、カード保険は既に旅に出て3か月が過ぎているため、遣えない。チェンマイの病院で言われた「カンボジアやラオスで病気になったら決して病院に行ってはいけない。バンコクかチェンマイの病院へと叫び続けること…。」との杉本氏の言葉が思い出された。とりあえず、腹痛と下痢だけ何とかしなければと、ホテルに近い薬局へ走った。

薬局のご主人らしき男性は、私の体の状況を注意深く聴いて、「旅人はみんなカンボジアに来るとお腹を壊す。心配ありません」と言って、慣れた手つきでセメントのような薬を調合してくれた。なんだか気が進まなかったが、この時は、この薬を信じるしかなかった。

かなり疲れている筈なのに、高熱のため眠れない。体温計を壊してしまい体温を測ることが出来なかったが、39℃以上はあったと思う。氷嚢代わりに、冷蔵庫からジュースやビールの缶を出して、額を冷やしたら10分か15分で生ぬるくなるほどの熱であった。

マラリアか？ 風土病か？ 喉に痛みが無いから風邪ではないかと思った。それが返って気味悪い。どんどん水分を取り、一晩中苦しんでいた。始めは原因が判らず、「アンコールワットに住む魔物に取り付かれた」と埒も無いことを考えもした。翌朝不思議なことに、7時頃にはかなり熱がさがっていた。一体何の病気だったの？　私の素人判断ではあるが、軽い、「熱射病」ではなかったかと思う。普段の生活の中で、50℃以上の野外に長時間身をさらす事などない。アンコールワットの建物内部はまだしも、建物の周りを歩くときは帽子を被っていても太陽の光が、頭に突き刺さる感じであったことを思い出した。水分補給は、心してやっていたのだが、やっぱりやられてしまった。

アンコールワットでは日本の高齢者も多く見かけたので、私も同じ行動で大丈夫と思い込んだのが間違いであった。彼らは日程がハードでも1週間か10日の短期観光だから、体力もあり何の問題もないのだ。こんな初歩的なことを見落とすなんて、まだまだ私も「旅の修行が足りない」と思ったことでした。

これで、4か月近い旅の全日程が終わろうとしている。日本へ帰ることが、嬉しいような、少しだけ寂しいような、憑き物が落ちたような気分で、シエムリアップを後にした。

余談だが、お2人の恋の行方は？…。

プノンペンで楽しく暮らしていたはずのK氏とA氏から連絡があった。結論を言うと、フロントマネジャーの予測どおり、2人とも恋に破れてしまった。

日本に帰った私に、K氏から先ず電話があった。“こんにちは”も言わずに、いきなり「あの女は、とんだ食わせ者だった。27歳の若い恋人がいた。しかも、もう4年も前から続いていて…。」と、震える泣き声で一部始終を訴えた。
私は、始めから、Sさんに恋人がいることの方が自然だと思っていたので、あまり驚かなかった。「家を買って上げる前で、良かったですね。それに、Kさんも数か月間、素晴らしい恋をして、楽しかったでしょう？」と慰めたが、彼は、電話の向うで、うなだれて泣いているようであった。

一方、AさんはTちゃんの実家の家も建てて上げたし、生活に必要なお金も渡してある、彼女とは恋仲で誰も入り込む隙はない。とばかりに、ベトナムでのお金儲けの話に夢中になり、Tちゃんの住む村まで2時間の所まで来ていながら、彼女の家には寄らず日本へ帰ってきた。

これを知ったTちゃんは激怒して、1週間後マレーシアのいかがわしい風俗営業の店に出稼ぎに行ってしまった。

ヤクザも絡んでいるので「もはや彼女を探し出すことは暗闇で針を探すより難しい。」とA氏はガックリ肩を落としていた。

私も、人様にとやかく意見できるほどの者ではないが、2人とも、人の心まではお金で買えないと言う基本を忘れて、心のどこかで、「お金を上げてあるから大丈夫」という態度と接し方であったと思う。

ロングスティともなれば、こういう問題は日常茶飯事になるかも知れない。しかし、自分がやられて不快に思うことは、老若男女を問わず、相手も不快に思うと言うことを肝に銘じておくべきであった。まして、外国の女性には感情まで無いかの如く振る舞いは言語道断。小銭を持っている事が、逆に、おぞましくさえ思えてくる。だが、これに懲りる様子もなく、お2人とも、今も又、カンボジアに滞在していると言う。本当に懲りない面々だ。

おわりに

4回にわたって、つたない私の見聞録をご高覧頂き有難うございました。この間、電話やメール、あるいはサロン会の席上でご意見・ご感想を頂くなど、予想もしなかったことだけに望外の喜びでした。

旅で出会った、いろいろな方々との出会いは、私の心を豊かにしてくれました。

体力の続く限り、これからも自由で気ままな旅を楽しみたいと思っています。

マニラのマンション購入余話

山口県在住　会員No.291 福田　修

購入余話（3）

1. 375万円は無事だった

1)建物が完成し代金の全額を支払った戸室は当然ながら私が日本にいる間に鍵と戸室の引き渡しを受ける。引き続き内装工事にとりかかると同時に家具を設置しなければならない。工事を発注するには見積もり額に従い前渡金を払ってやらなければ業者は動かない。電気製品なども現金払いが原則で値引額も大きい。

2)仕方なく30万ペソ(@2.5=¥750,000)の残額がある銀行口座のATMカードを不動産会社の担当課長に預けることにした。一方戸室の代金支払いなどのため300万円程度のお金を日本から送らねばならない。しかもドルや円ではなく現地通貨であるペソにかえて小切手のおちる口座に着金していなければならぬ。このままでは小切手が不渡りになってしまう。

3)そこで仕方なく課長ともども担当者と銀行に行き預金口座の名義人を私と担当者の共有とするよう変更手続きをとり預金通帳も渡した。私が送金すれば担当者は300万円を引き出して街の両替商のところで円をペソに替えて、更に私の取引銀行の支店まで持参、入金する方法まで打ち合わせた。

4)マンション購入話ではじめて会って3ヶ月足らず、数える程の回数しか話もしていないフィリピン人に、現金と変わらない高額の預金を預ける決断をしたわけだ。今一度繰り返します。フィリピンでフィリピン人に預けたのです。日本ではまず起こり得ないケースでしょう。長い私の一生の中でもこんなことは前代未聞、はじめての経験でした。

5)購入余話(1,2)を書きながら内心はそれどころではありませんでした。友人に尋ねられても笑われるのがオチ、本当のことを話すわけにいきませんでしたので「フィリピンの話はいつも一寸先は闇」と答えていたわけです。

6)当初は２ヶ月後にマニラへゆくことにしていたのだが、どうにも我慢できなくなって１ヶ月繰り上げて小切手がおちる直前に現地に飛ぶことにした。とるものもとりあえず急ぎ銀行口座残高を確かめてみたところ１円も１ペソも引き出されていなかった。

7)課長と担当者には感謝感激。でもそのことはおくびにも出さずごく当たり前のことの様に私はふるまった。日本人が少々の金を盗られても新聞種にすらならぬ国といわれるフィリピン。だが、悪い人もいっぱいいるが信頼するに足る立派なフィリピン人もいる。

2. 先方不動産会社内でのインチキばれる

1) 余話 (2) で私が一旦予約して代金の一部を支払った戸室をキャンセルして他の販売グループの物件に乗り換えた。そのための社内工作上、本当の買主は日本にいる黒幕でこの黒幕がセブにいる手先（失礼）を使って契約させておいて、あとで黒幕が私に選手交替を命じたことになっていると書いた。

2)ところがこのインチキがばれて先方社内で大問題になった由。結局販売手数料を折半することで手打ちとなったという。

3)しかし肝心のお客である私に何の相談もなかったし私の支払額の中から無関係な人に、手数料という名目ではあっても金を支払うのはケシカラン。社内の規則がそもそもおかしい。考え直して欲しいと販売担当重役宛に日本から手紙を出してクレイムをつけておいた。

4)私には損にも得にもならないからどうでもいいのだが、さてどうなるか。相手は大会社だしどんな対応をするのかな。一介のユーザーからのクレイムだから無視するのかな。やはり興味がある。

3. 銀行支店長が秘密を漏らす

1)ところでどこから秘密が漏れたのか調べてみたところ、銀行の支店長の口から私の銀行取引の詳細が全てつつ抜けになっていたこと判明。何月何日にどこからいくらの入金があった。いくらの出金がいつあった。私が支店長に話したのだが、25万ペソの出金の使途がマンションの内装工事のためであることまで外部に漏れている。

2)この様に具体的に数字を突きつけられては営業担当者として抗弁のしようがなかろう。販売手数料50%カットも飲まざるを得なかっただろう。

3)でも収まらないのは私の方。(営業担当者も銀行支店長に抗議申し入れ済み)私がマニラで取引している他の銀行３行に聞いてみると異口同音にBank Secrecy Act(銀行秘密保持法・・私の訳語。銀行業界でどのような訳語を使われているか知らない)により秘密を漏らすと法に触れるからそんな事は出来ないと言う。

4)銀行取引はマンションを買う事になったのでマニラでもはじめたものだが4行のうち一番便利がいいのがこの問題銀行の問題支店。いずれ私自身で支店長に厳重抗議したうえで何らかの措置をしなければならぬだろう。

5)ただ支店長をしかっても銀行の体質は変わらないので、少なくとも法務担当重役から「秘密は守ります」旨の念書位とりつける努力はしてみよう。

6)また、くだんの法の執行機関ときくフィリピン中央銀行(日本の日本銀行に相当するらしい)の意見も聞いてみたい。このほうが銀行に襟をただしてもらうには早道かも知れぬが私が一介の外人にしか過ぎないので相手にしてもらえぬ可能性もかなり大きい。

7)マンション購入は私のボケ防止が目的の一つなのでこのトラブルはわたしにとってチャンスでもある。いろいろな方に会って勉強してみたい。ただ支店長の出かた次第だし私にそこまでの能力はあるまいからどうでもよい事だが、支店長がクビになるような事態は避けたほう がよかろうと思っている。

4. 頭がパニックをきたす

1)不動産会社の担当課長がマンション戸室用の冷蔵庫、ガス台、ガスレンジ、エアコン等を購入するのに付き合った。というより本当は私がしなければいけない仕事をしてもらったのだが。

2)課長は店員とタガログ語で品質、価格、設置費用などでガンガンやりあって重要なポイントでは私に英語で説明してくれる。店舗と同じ建物にあるマンションだからまけろ、いやならほかの店に行く・・・割引価格から更に値引きをさせたうえ(店員は何度も奥へ引っ込んで店長と値下げの相談)、設置費用や運び賃なども全部まけさせたりしたのでかなり割安な買い物ができた筈。

3)だがこのやり取りを聞いていて私は頭がだんだんおかしくなってきた。交渉のテクニックも日本人と違うし(私であれば割引価格で買えただけで満足しているところであろうか)、長さはメートル法なのに冷蔵庫の容量はリットルでなくて9キュウビック・フイートなどと言っている。

4)買い物だけではないが、その日は新しい事柄があまりに多く一時に押し寄せてきたので私の能力を超えたためだろう、どっと疲れが出てしまった。頭がガンガンしてきて笑うことは勿論、話も出来なくなった。

5)かって、私が現役のころ途中入社の若い諸君を一刻も早く戦力にするため集合研修で鍛えたとき「新しい事が多すぎて頭が割れそう。もうだめだ」などと困っていたのを思い出す。この年になって同じような経験をするとは・・・。

6)できるだけ若さを失わないよう、はやくボケるのも防げようとフィリピンでマンションを買い、あえて自分は住まずに現地の人に貸そうという試み。しかしこれでは私の能力の面から見ても黄信号か。前途多難。さてどうなるのか、どうするか。

2004年1月1日より以下の条件により
<u>ベトナムの査証が不要になりました。</u>

1)ベトナムでの滞在日数が15日を超えないこと
2)観光及びビジネスを目的とすること
3)旅券の有効期限が最低３ヶ月以上あること
4)往復航空券または第三国行き航空券を所有していること

オーストラリアに3年余住んで

愛知県在住 会員No. 570 山田 善一

これまで私は名古屋で、永年、ある学校に勤務していました。普通の学校ではなく、アメリカンスクールと呼ばれる国際学校でした。幼稚園から高校までの生徒に英語でアメリカ式の教育を行う学校で20ヵ国近い国々の子供達が通学していました。

定年後、これまでのインタナショナルスクールでの経験を買われてオーストラリアにある国際学校の運営のお手伝いをすることになりました。豪州のこの学園は１つの法人のもとに、３つの学校がありました。１つはインタナショナルスクールで、１年生から高校３年生までの生徒が通学し生徒数は約500名、2つ目は日本人学校で高校生約70名、3つ目は語学学校で、英語を学ぶ生徒数約60名の構成でした。

生徒の国籍は、オーストラリアが80%、日本８％、台湾４%、韓国４％、その他４％、合計約630名の生徒が在籍しました。(教職員約120名)

この学園は、Queensland洲の南部の小さい町Jimboomba（ジンブンバ）にありました。ブリスベーン空港から車で南西へ１時間、周囲を牧場、平原、森など豊かな自然に囲まれた194ヘクタール（59万坪）の広大な敷地の中には18ホールのゴルフ場があり体育ゴルフ専攻科もあり世界に通用するプロゴルフプレヤーの養成を目的の一つにしていました。

初めてこの学校に到着して、自分の目でこの学園を見て驚いてしまいました。校門を入っても、あちこちにそびえるユーカリや平原が見えるだけで建物など何も見あたらない。管理棟まで歩いて30分もかかってしまいます。やっと受付に到着するとオーストラリア人の美人秘書が待ち受けていました。愛想よく笑顔でぺらぺらぺらと話かけてきました。空港まで出迎えてくれた日本人学校の教頭が私を紹介してくれました。

こうして、はるばると南半球の新しい職場にやってきましたが職場には、オーストラリア人とニュジーランド人が110人、日本人が12人の合計約120人の教職員がいて、一緒に働く事になりました。

事務局の皆さんに初対面の挨拶を交わしてから先ずはこれからの我が家となる教員宿舎6号に落ち着きました。キャンパス内にあるこの宿舎はブロック造り、平屋建てでDuplexと呼ばれる２軒長屋。建坪は約130㎡ありました。居間食堂、キッチンが南側に配置され、ベッドルーム２部屋、洗面、トイレ、お風呂ユティリティ、玄関が北側にあります。南半球だから、季節は北半球と反対であるとは理解できましたが太陽が北側から部屋の中に差し込む事は知りませんでした。ここは、沖縄と同じ緯度にあり亜熱帯地方であるので部屋に陽が入らない様に配慮されていました。この住宅で、妻と2人の生活は、広すぎるくらいの空間がありました。

この学校の教職員は誰でも愛想がいい。毎朝顔をみると、例外なくにっこり笑顔で「Good morning, Mr.Yamada. How are y ou?」と挨拶を欠かさない。別に私だけ特別という訳ではない。他の教職員同士でも全く同じ。キャンパス内のみではない。週末にモールへショツピングに出掛ければ、レジの係りの女性が（男性も同じ）恋人に見せるような笑顔をみせてくれます。「How are you today」と 。日本でも、確かにデパートやスーパーマーケットでは「いらっしゃいませ」とは言うけれども、あの素敵な笑顔はなく、オーストラリアとは大違い。日本ではマニュアルに書いてある言葉をそのまま口にするだけの事。心がこもっていないと思います。

あるとき、路線バスに乗りました。座席は満席で約10人ほどの乗客が立っていました。そこへ新たに足元の覚束ない老紳士が乗ってきました。すると近くにいた乗客のすべての人が、彼の為に何かお手伝いをしようと、手をさしのべたり背中を支えたり席を譲ろうと何人もの人が同時に自分の席を立ち老紳士を皆で温かく迎え入れる光景をみて、私は感動しました。本当にほのぼのとした気持ちになりました。そしてその日１日中、心の中に幸せな温かいローソクが灯っていました。当たり前の事かもしれませんが日本の現状と比較して大きな違いを認めざる

を得ませんでした。

オーストラリア滞在中は、私はいつも自分で運転していましたがここでの運転マナーは抜群です。いつも相手を思いやる心を持っています。ブリスベンからのフリーウエイは片側１車線(所により２車線)で、殆どのところを100ｋｍ/hrで走行できる。ところがグリンベルトが無い所が多いので対面の車と100ｋｍ同士ですれ違う。運転に慣れるまではこの道路が怖かった。そのうえ道路は、所々で平面交差点があるのです。私が学校から出掛ける時も同じでした。

ところが、こうした交差点に差し掛かっても不安に思った事は唯の一度も無い。なぜか？彼らは高速道路に信号のない交差点から進入するときは高速道路を走る相手の車が、どんなに遠いところにあっても必ず待っている。時速100ｋｍのスピードでくる車は例え米粒くらいに見えても10秒か20秒のわずかの時間で急速に接近してくる。私も、彼らと同じ運転マナーをしっかり身につけたので危険な目に会うことは１度もなかった。交差点の信号は誰もが、きちんと守っている。信号無視の横着な車など、見当たらない。

オースラリアでは、当初は国際免許証を入手して、運転していましたが、Queensland洲とNSW洲では、日本の免許証でOKであることを知ってからその後は、ブリスベンの日本領事館へ出掛けて、免許証の翻訳証明書を作成してもらって、警察官の求めに応じ免許証とこの証明書を提示していました。全豪日本商工会議所は日本の運転免許証をそのまま全洲で使用できるように制度の統一を連邦政府に要望していましたので現在では他の洲でもこの制度が導入されているのではないかと思います。渡豪前にご確認をお願い致します。

ここで、オーストラリアの学校の休日について記しておきます。年間に長い休暇は４回あります。年により、また洲により多少の前後はありますが、家に子供が居ない家庭でも学校の休暇を覚えておくと大変役立ちます。それはどうしてでしょう？ 実は、この期間は、各地の宿泊施設(ホテル/コンドミニアム)の値段が大幅に跳ね上がるのです。2倍から3倍になります。南の会の会員の方で、短期に滞在されるのでしたら、この期間を避けることによって、無駄な費用を避ける事が出来ます。

オーストラリアの学校の休み(年により、また洲により１週間位前後します)

イースター＊	4/9	から	4/17
冬休み	6/18	から	7/4
春休み	9/17	から	10/3
夏休み	12/13	から	1/23

＊イースター（春分の日の次にくる満月後の最初の日曜日)の休みは、年により２～３週間変わります。

オーストラリアに来て、最も感動したのは、星空の美しさでした。南十字星とともに輝く何千もの星の数々！それを見ただけでオーストラリアに来て本当に良かったと思いました。夜９時から11時頃にかけて、周囲が真っ暗の中で、空を見上げて思わず感嘆の声を上げていました。「これこそ、本当の星空の美しさだ！」 時間を忘れていつまでも、いつまでも見上げていました。

星空の美しさだけではなく、昔からの自然がそのまま残っているのが、オーストラリアなのです。悠々たる大自然のなかで生活してみると、なんでもない事にとらわれてコセコセしていることが案外多いことに気がつきます。私は、オーストラリアに３年間生活して、自分自身の性格が大らかになった様に思います。家内もその様に申します。偉大なる大自然の中で、一人の人間が如何に小さな存在であるかに思いを致す時、自分なりに悟る何かがあります。

外国からの留学生は、キャンパス内の寮に入るものが50%位、残りはオーストラリア人の家庭へのホームステイでした。私の住宅には水道がありましたので、水には全く苦労がありませんでした。しかしこの地方では水道のないところも沢山あり、ホームステイ先は殆ど水道がありません。こうした所では雨水をタンクに貯めてこの水を使っていました。雨が降らないと水が無くなります。こうした時には、タンクローリーから水を購入する事になります。雨水又は

購入した水は大きな水槽にいれられ、塩素消毒して飲料水に使っていました。しかし水槽の水は限度があるのでとても大切に使用していました。草木への散水などは、とても出来ません。

それどころか毎日のシャワー、洗濯炊事にも大切に使います。ある家庭ではシャワーも何分と時間を決め、湯を流しっぱなしにしない。洗濯は週に1回にする。食器洗いの水も節約する。といった極端な節約を強いられた生徒もいました。

皆さんは暗闇の中を歩かれた事がありますか？ 時々、残業で夜10時頃事務局から、徒歩で宿舎まで歩いて帰宅の途につく事がありました。月夜の夜とか、星の出ている夜はそれなりに建物が暗い影絵のように浮かびます。ところが、そうではない時は、全くの闇です。街灯は付けられていません。目を大きく見開いて前を見つめても、何も見えない暗黒なのです。前後、左右は、何も見えてきません。事務局から宿舎まで約700mありましたが、両手を前に伸ばして恐る恐る手探りで前進します。これまで、このような事を経験した事は一度もありませんでした。本当の闇とは、この事をいうのだ、と言う事を身をもって体験しました。都会に住んでいる私にとって、星空の美しさと共に、忘れられない暗黒の世界の体験でした。

キャンパスには、男子寮と女子寮がありました。寮生は外国(韓国、台湾、マレーシア、中国、日本など)からの留学生が入り、男子約70名、女子約30名の構成でした。女子寮では、たいした問題はなく、平穏でしたが、男子寮では1人の舎監では、目が行き届かずやはり監督者の数が不足するので、学園の教師で夜だけ寮内の1部屋に泊まることにし、生徒の監督にあたらせていました。或るとき、A舎監補(オーストラリア人50歳近い男性教師、離婚し独身)が同僚女性教師を、舎監補の部屋にいれ、半同棲している事が明らかになりました。男子寮生の監督に当たる職にある舎監補が男子寮内に女性を毎晩自室に入れていたとあっては生徒の手前もあり、到底見逃す事は出来ないので、校長に相談しました。

校長先生は、「私から話をするので任せてくれ」との返事でした。食堂で偶然この教師に会ったとき、彼は私に「あなたは何故校長にこの件を話したのか？」と猛烈な抗議を繰り返しました。私は、彼が非常に興奮しているので、あなたの言いたい事はわかった。「明日改めて話し合うことにしましょう」と言って別れました。翌日、校長、法人本部長、この舎監補と私の4人で話し合いました。冒頭、この舎監補は「昨日は、大変失礼な態度をとって申し訳ない」と素直に私に謝りました。私は「仕事上必要があれば誰とでも話をします。あなたには、私の職務上の行為について、云々する権限はない。」と言いました。彼は一言もなく同意しました。

次に、男子寮に女性教師を入れ半同棲している問題に移りました。私は、「男子寮の中にある舎監補の部屋へ女性教師をいれ同棲しているのは、寮生の手前もあり、そのまま黙認する事は出来ない。まして結婚していない男女であれば、尚更のことである」と付け加えました。ところが、オーストラリアでは、事実婚の考えが一般的に認められ、結婚していなくても、事実上夫婦と同じ生活をしている２人には、夫婦と同様な権利が与えられると言う事をその時知りました。お粗末な失敗をご披露しました。結果的には、この２人は寮から退出して、決着となりました。

何百人もの、生徒を預かっていますと、怪我人も出ます。学校でケガをした場合、学校のナースにより応急処置をしますが、大きい怪我の場合に次にすることは、何でしょうか？ 日本なら当然119番を回して、救急車を呼ぶのは当たり前の事です。ところが、オーストラリアでは、違います。最初に電話するのは、両親です。そして、親の指示に従います。救急車で、最寄の病院に搬送して欲しいと指示があれば、そのようにします。なんだか日本人では考えられない手続きが必要になります。或る時は、両親が学校へ迎えに行くので、待って欲しいと言われました。怪我をした生徒を、応急処置だけで、そのまま、待たせることは、本当に心配ですが、その様な文化なのです。これは、何もオースト

ラリアのこの学校だけではありません。

以前、名古屋のインターナショナルスクールの時も同じでした。（当時は、両親からケガのとき生徒を病院へ搬送の許可を事前に念書としてサインしてもらいました。）よく話を聞いてみると、欧米では、裁判沙汰が多く、時として、どうしてこの病院に搬入したのか？　私達の家族は、特定の病院以外の医者に処置を任せることは、一切しない。結果責任をどのように取るのか？　学校が医者の治療の後のことまで責任を負わされる事もあり得ると聞かされました。実際に起こった事件についての話ではありませんが、日常発生する怪我にも、日本の常識が、非常識である1例です。ご参考までに、オーストラリアでは、救急車は有料で、この学校から、ブリスベンの大きな病院まで（100ｋｍ/hで40分）搬送して貰うと、A$500（約¥40,000）位請求されました。

この学校のある女性教師のご主人がBrisbaneのGriffith Universityの教授であった関係からある日、この大学を見学させてもらいました。教室、図書館、実験室など、などでは、特別に驚くような施設はありませんでした。次に、学生寮を見せてくれました。この大学の寮は、男子も女子も同じ建物に住んでおり共同のラウンジ、キッチン、食堂があり、ベッドルームだけ別になっていました。男女が寝る時だけ別の部屋に住み、後はすべて一緒というこの共同生活を知って驚きました。私が訪問した時にも男女の学生が一緒にキッチンで炊事をしているところを見ました。

オーストラリアでの生活の一部を、思いつくまま書いてみました。まとまりも無く、会員の方々に読んで頂くような内容でもありませんが、たとえこの中の1つだけでも、何らかのお役に立てば有り難いと思います。お読みになって、読後の感想、ご批判等もお聞かせ頂ければ幸いです。

メーリングリストから

広報担当 No.101 高澤 弘晃

今日は本の紹介をさせてください。

題名は「海外で気持ちよく暮らそう」という、内容で「旅行＋ガイド＋人生設計＋たのしい退職後、年金プラン」です。

とにかく、南国暮らしの会のメンバーがてんこ盛りに出ております。勿論、南国暮らしの会はばっちり宣伝しています。会の様子を他の人に知らせるにも絶好の機会です。会の案内として利用ください。

大勢の方の海外ロングステイ体験談が入っています。我が会の掲載メンバーを列挙いたします。

木村義光さんご夫婦‥‥マレーシア、オーストラリア
池田徳三郎理事長‥‥‥‥フイリピン、タイ、マレーシア
平沢　信‥‥‥‥‥‥‥‥アジア中心
小川護雄ご夫婦‥‥‥‥‥中国
藤原迪子‥‥‥‥‥‥‥‥マレーシア
鈴木宣男‥‥‥‥‥‥‥‥タイ
阿部功‥‥‥‥‥‥‥‥‥タイ
小林繁之‥‥‥‥‥‥‥‥インドネシア
橋本比奈子‥‥‥‥‥‥‥フイリピン
高澤弘晃‥‥‥‥‥‥‥‥フイリピン
鈴木剛‥‥‥‥‥‥‥‥‥オーストラリア
水谷郷‥‥‥‥‥‥‥‥‥タイ
酒匂景輝‥‥‥‥‥‥‥‥マレーシア、タイ
市東明義‥‥‥‥‥‥‥‥マレーシア

とまあ、我が会員がてんこ盛りだということがわかるかと思います、
是非一度本屋さんで見てください。

題名　　海外で気持ちよく暮らそう
出版社　自由国民社
価格　　1500円

今日（11月２１日）ごろから本屋さんで販売されています。

スローライフ in ロタ5年

ロタ在住 会員No. 398 山本 隆

12月でロタ生活満５年を迎えました。
早期退職して57歳で家内と猫一匹と共に移り住んだ南洋の島。のんびりした単調な日々の繰り返しの中で生活リズムにメリハリを付けながらのスローライフ。

娯楽（いわゆるお金を払って楽しませてくれる営業施設）や格別のグルメも乏しい島ですので受身でいると何時までも退屈なただの自然豊かな南の島になってしまいますが、5年も住んでいますとそれなりの楽しみ方が身につきました。ロタ暮しならではの日々折々のトピックスの幾つかをご紹介致します。

１）アジ釣り

島の友人達と一緒に島の周辺をボートでトローリングしてキハダマグロ、さわら、かつおを釣ったり、波の静かな干潮時を狙ってさんご礁を歩きサザエを拾ったり、月夜に岩場で赤魚やロブスターを釣りあげたりして、自ら釣上げ、新鮮な海の幸を味わう機会を持てるのは島暮らしの特権です。

これに加えて釣り味、食味とも楽しめるのは港内のアジ釣りです。港といっても幅100mにも満たない小さな船着場です。毎年7－11月頃2－3ヶ月の間（年によって不定期ですが）アジの群れが港に入ってきます。

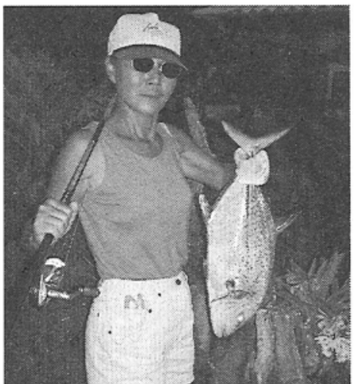
水が澄んでいますのでアジの群れは黒い塊となって形を変えたり移動するのが岸壁から良く見えます。群れは推定数万尾はいるでしょう。そのアジの群れに向かって疑似餌の付いた仕掛けを投げ入れるのです。疑似餌は薄いゴム手袋を小さく切って針に装着する簡単な手作りのもの。
釣れるのは20-25cm程の中アジですが針掛りすると結構引きが強く楽しめます。多い時は1-2時間で20－30匹も釣れる事があります。
☆料理法

塩焼きも美味しいですが私の好きな食べ方は刺身をチャモロソースでいただく事。チャモロソースはロタレモンにしょうゆを同量加え、ロタでとれるレッドペッパー、玉ねぎかニンニクのみじん切り、味の素を少しで出来あがりです。

圧巻はそのアジの群れを追って外洋から大型魚が港に入って来る事です。アジの群れを取り囲み、時にアジの群れに突っ込み、アジを執拗に追いかけ水面が追いかける魚と逃げ惑う魚で賑やかになる時弱肉強食の自然のドラマには感嘆致します。

そしてアジ釣りをしている時仕掛けに4－5kgのカスミアジ、磯マグロが時々掛かります。
細い仕掛けで大物を釣上げるのはスリル満点です。（稀に10－20kgクラスの大物が掛かりますが瞬時に糸を切られます。これくらい大きな魚は専門の仕掛けが必要です）岸から10-30mの所で釣れるのですから驚きです。

我が家（だけでなくロタの釣り好き）は毎年このアジの群れが港に入って来るのを心待ちにしています。最盛期にはお互いの仕掛けが絡むほど狭い港に釣り人が竿を出します。私の釣りのお供をする程度だった家内はすっかり釣りにはまり、朝夕も含め１日に何度か家から車で５分の港に足を運び、アジや大型魚を釣上げ、かなり腕を上げました。日本に帰ると釣具屋に足を運び、仕掛けは全て自分で作っています。



釣上げた4Kgクラスのカスミアジ

２）オーシャンスイムを楽しむ

ロタの海で継続的に水泳をするなんてロタに来る前の計画には全く入っていませんでした。ロタで毎年行われるオーシャンスイム、トライアスロン大会（スイムだけ）に恐る恐る出場しそれが契機になり週2－3度海で泳ぐようになりました。気が向いて海が荒れてさえいなければ

すぐ泳ぎに出掛けていきます。

暖かい海水に身を任せ、眼下に珊瑚や魚の群を眺めながら蒼い空間をのんびりとハイキングする感覚で泳ぎます。きれいな海を一人占め。何か凄く贅沢。30分も泳げば体も心もすっきり。

そしてロタのスイム大会、トライアスロンは日常のスイムの目標となり、老若男女新しい仲間との出会いの場も提供してくれます。

暑い南国ではどうしても運動不足になり勝ちですが、私にとってオーシャンスイム(とゴルフ)は健康管理の為切り離せない日課となっています。

☆南の海での水泳のお勧め

南国暮しの会員の皆様、泳げる方も泳げない方も南の暖かいきれいな海でのスイムを目標として水泳の練習を始められては如何でしょうか。50歳代後半で水泳を始め大会に出ておられる60歳代の方も結構おられます。有酸素運動のスイムで健康増進、心身とも若返る事絶対請け合いです。南国生活とスイムは相性が良いと思います。

3）菜園

ゴーヤ、ねぎ、ニラ，オクラ、インゲン豆、トマト、かぼちゃ、ペッパー、バナナ、パパイア、パイナップル、サワーサップ、アテイス、無花果(日本から移植)ノニ　等。

以上が現在我が家の菜園に植わっている野菜、果物で家内が主として管理しています。成長が早いので収穫しても食べる方も大変な時があります。バナナなど多い時は一本の木から1度に100本近くも獲れますが、短期間に一斉に熟し始め賞味期限はあっと言う間です。ただ生活の知恵で知り合いの間でお互いに野菜，果物、魚等を融通しあったりしますのでまず無駄にはなりません。

菜園のお陰で我が家の食事は特に野菜が多いです。野菜、魚中心の食事に加え釣り、スイム、ゴルフ、農作業等のアウトドアーが主体での活動は健康の為には良い事だと思っています。

4）ネットトレードで生活費捻出？

もともと株式相場が大好きで趣味と実益(？)を兼ねて昔から証券会社の窓口経由売り買いの注文を出していたのですが、ネット証券の出現とロタでも始まったDSLでネットトレードをする環境が出来ました。

情報源はインターネットとNHK衛星テレビのみ。国内に身を置いていないので情報が少ない分最初からハンデイを背負っていますが投資結果は平均すればまずまずでしょうか。

私の場合もご多分にもれず勤めていた会社から企業年金の削減の話が来ています。国民年金もあてにしていた額を受け取ることは難しいと云われています。わずかな金利を見返りに銀行預金とか国債を買うと云う受身の資産運用は私の場合性格的に合いません。リスクを最小限におさえつつ、ネットトレードはロタ暮しの日課の一つであり続けると思います。

5）スーパー台風

1年前スーパー台風がロタの近くを通りすぎました。昔大阪でジェーン台風や第２室戸を経験していますが比較にならないほど狂暴な風が一晩中荒れ狂いました。村のバラックの屋根が殆ど全部吹き飛んだり我が家でも窓ガラスが割れる被害を受けました。電線は寸断され島中約２週間停電しました。

今から思い出しますと怖かったことよりも、台風一過、辺り一面の芳しい癒しの香り(飛び散った木の葉の香りだと思います)、日没と共にローソクだけの生活、寝床から流れ星が飛び交う星空(普段から星空はきれいですが)を見るなんて普段なかなか経験できないものでした。

強暴な台風が通過するのをひたすら待つ間絶えず心の中にあったことは何故か日本(大都会)の安全でした。ちょっとした地震，台風の被害でもﾏｽｺﾐは大騒ぎしますが、これだけの自然災害や思わぬ戦争にでも巻き込まれれば、または突然石油が切れたら．．その脆さは想像するだけでも恐ろしくなります。

最後に

ロタ生活を補ってくれるのが日本への一時帰国。日本では思いっきり都会(消費)生活を楽しみます。(ロタではまずお金を持って歩かないのです。必需品を買ったりレストランに行く以

外お金を使う対象、場所がありませんので）買い物、美味しいもの食べ歩き、スーパーの豊富な食料品、サービス（ちょっと過剰ですが）。やはり日本は素晴らしい国だと思います。そして2－3週間の日本滞在を終えロタの自然に帰った時の安らぎの気持ち。
これからも田舎暮らしのロタ（主）と都会暮しの日本（副）の対極の2住生活は続きそうです。

海外でゴルフ

ベトナム超ハードゴルフ紀行

No. 304 関本　好則

12日から16日までベトナムで４日間ゴルフをしてきました。今回はゴルフチャンネルを運営する友人が、今後日本人ゴルファーに来てもらいたい会社の招待を受けＴＶ朝日のＵさん。日本ゴルフ機構のＷさんの４人でアドバイザーをしながら毎日ゴルフをしました。

ベトナムはゴルフ場も少なく、外人向けなので比較的高く、場所も不便な（日本からは）コースだったので現時点ではあまりおすすめ出来ませんが、滞在中、オーナーや現地責任者に「南の会」の宣伝をし「南の会」関係者には特別料金が設定できないか！広報に相務めました所、会から依頼があれば今後考えても良いといがありましたので、一応の情報をお知らせします。

今回ラウンドしたコースとホテルは
（１）ホーチミンから車で３時間北上した海沿いのリゾート（ファンティエット）にある「ノボテルコラリア　オーシャン　デユーンズ　＆ゴルフ」今年のアジアサーキィットが予定されているコースで、バックティからはなかなかの難コースです。ホワイトからなら、私でも100を切れましたが、池が巧みに配置され、最初ボールをたくさん寄付しました。

ゴルフチャンネルのＴ氏によれば、タイガーがラウンドしたタイのコースよりはレベルが落ちるとの事でしたが海沿いのコースとしては上級の部類に入る印象でした。町の詳細は、インターネットでファンティエットで引けば出てきます。料金は、前述しましたように会として交渉次第で年末年始以外はかなりやすくなるようです。

私が感動したのは次に紹介するダラットの町とホテルとコースです。会員の平沢さんが、「あまり日本人が来ないよう黙っているけど素晴らしい所よ！」と出発前に教えてくれたのですが私の印象もまさにそうでした。
（２）高原地帯を車で30分近く走ってゆくと、ダラットと書いた看板から１分、峠の向こうに見えてきた町並みはベトナムというより、ヨーロッパの小さな街が突然現れた印象でした。

宿泊したソフィテルダラットホテルは1920年代にフランス人によって建てられた建物を、そのまま修理改築したそうでフランスの一流ホテルの雰囲気がありました。小さな湖を囲むように町並みが配置され、湖を挟んでホテルの反対側に丘陵コースがあります。

このコースで印象的だったのは、松並木で各ホールがセパレートされ、蓼科高原でラウンドしているような印象です。最高気温22度、冬の夜は10度位になることもあるそうで、ホテルにエアコンはありませんが、各部屋には暖炉の設備がありました。夏の夜は寒くはありません。7月から10月初めまでは雨期で閑散期だそうです。ここの雨は、午後１時から２時に必ず降り始め、夕方には止み夜は月や星が本当にきれいで、朝から昼までは真っ青な空が広がっていました。

４日間の間毎日ゴルフに明け暮れたのと、ダラットからホーティミンの飛行機が雷雨でキャンセルになり車で300キロ以上走り、深夜の便に滑り込みセーフ、今朝帰って来ましたのでとりあえず、今日のご報告はここまでといたします。

なお、（１）も（２）も同じオーナーがホテル・コースとも経営していますので、値段は交渉次第ということで書きませんでした。

「認定ＮＰＯ法人」と寄付金

東京都在住　会員No.３ 池田　徳三郎

1. はじめに

昨年の総会で寄付に関する質問を受けましたが、その時「一般寄付・特定寄付・指定寄付の説明（注１）をし、NPO法人は一般寄付の対象になる。」と不勉強な説明をしておりました。そして、プロの２人の友人に確認しましたら、その通りだとの返事でありました（今まで国税庁のPR不足でしょうか）。

その後、会員の方から寄付を頂戴し、改めて池袋の税務署に伺い説明を求めた際、租税特別処置法の一部改正により、「**認定NPO法人制度の手引き**15年7月版」が出されていることが判り、唖然としました。

「認定NPO法人に対する寄付は、特定公益法人と同様に、一般寄付金に係る損金算入額とは、別に設けられた損金算入限度額の範囲内で更に損金算入が認められる等」の説明でした。

早々に委員会を開催し、説明し、その結論を得、説明資料を用意し、関係窓口である「東京国税局」に「認定NPO法人」の申請手続について2人で出向きました。そして、さらに新しい事実がわかりました。（後記2.～3.参照）

（注１）

① 一般寄付金の控除額（法人の場合）
（資本等の金額×0,25+所得金額×2,5）× 1/2

② 国または地方公共団体、指定法人に対する 寄付金又は指定寄付金の控除額
全額損金算入

③ 特定公益法人又は認定ＮＰＯ法人の寄付金の控除額
一般寄付金の控除額とは別に、さらに次の額を限度として損金算入
（資本等の金額×0,25+所得金額×2,5）× 1/2

2. 認定NPOになる前提（要件）

運営組織及び事業活動が適正であり、公益の増進に資することにつき、8つの前提をクリアーしなければなりません。当法人はその多くをクリアーすることが概ね出来るが、ただ１点クリアーできない事実がありました。

その事実は日本でまだ余り馴染みがないことですが、主としてアメリカのボランテアーで普及している「パブリックサポートの概念」を国税庁が導入し、そして、その概念をベースに「認定NPO法人」の要件に適用した事実です。

同概念の沿革・内容は詳しくないので省略しますが、８つの前提のうち、当会がクリアーできない唯一の1点は「パブッリックサポートテスト」です。

3. 「パブリックサポートテスト」とは

その法人の活動が多くの人に認められ、その活動に対し不特定多数の人および一部会員から寄付を受けている事実です。

国税局の同テストの内容を簡記しますとその概要は次の７つの柱からできているようです。

「パブリックサポートテスト７つの要件」

① 遺贈、贈与を含める
② 1,000円以下の寄付を受けている
③ 1,000円以上の寄付者の氏名（名称）
住所・金額・その他を記録した「受け入れた寄付金の明細表」を作成している
④ 氏名住所不明の寄付者
⑤ ①～④の寄付金の総額が会の総収入の20%以上である
⑥ 寄付者の数
寄付者の数に関しては特に定めていませんが、さすが税の取立て主管庁で、おおらかではありません。（注２）
⑦ 以上の資料が申請時の前２年間にわたり必要です。

当会が「認定NPO」を申請するには、15年度後半に65万円以上の寄付金を20人以上の方からうけることが必要で、なお15年度、16年度と継続し、その関係資料を準備して、17年度に申請することになります。

これが不可能であれば16年、17年の２年間、上記の寄付行為活動をし、その実積を作り、18年度に申請することになります。

（注２） ⑥の計算例

当法人の15年予算上の総収入　2,820千円
会員の増加による予測増加額　　430千円

総収入計　　　　　　　　　　　3,250千円

3,250千円x20%<650千円(最低目標額)

１人の寄付金の限度額 650千円×５％=32.5千円

(32.5千円以上の寄付者は１人 32.5千円と見做して、寄付者の人員を計算する。)

650千円/32.5千円 < 20(人)

32.5千円以上の寄付金と20人以上の寄付者、または

32.5千円×10人=325千円と仮定すると、残りの額を多くの寄付者により充当する。

４．その他の７つの条件項目

前記１)「パブリックサポートテスト」のほかに次の７つのハードル(計８つ)があります。このことは当会の組織・運営・諸活動等に関し、尊守してきました事項であり、またNPO法人としては違反出来ない尊守事項ですから、改めて掲載します。

２)活動の対象に関する要件

イ　会員等に対する資産の譲渡等及び会員等が対象である活動

ロ　特定の範囲の者に便益が及ぶ活動

ハ　特定の著作物又は特定の者に関する活動

ニ　特定の者の意に反した活動

イ～ニの合計額の５０％以上

３)運営組織及び経理に関する要件

イ　運営組織ついて

次のいずれをもみたしていること

役員又は社員のうち親族等で

構成する最も大きなグループの人員 <1/3
役員又は社員の総数　　　　　　　　=

役員又は社員のうち特定の法人等の役員若しくは使用人で構成する

最も大きなグループの人数 <1/3
役員又は社員の総数　　　　=

ロ　会計について

公認会計士の監査を受けていること又は青色申告法人と同等の取引記録、帳簿の保存を行なつていること

４)事業活動に関する要件

イ　宗教活動、政治活動及び特定の公職者等又は政党を推薦、支持又は反対する活動を行っていないこと

ロ　役員、社員又は寄付者等に特別の利益を与えないこと及び営利を目的とした者等に寄付を行っていないこと

ハ　特定非営利活動の係る事業費 >80%
総事業費　　　　　　　　=

ニ　特定非営利活動に係る事業費 >70%
受入寄付金総額　　　　　=

ホ　助成金の支給を行う場合は、事前及び事後にその内容等を記載した書類を国税庁に提出していること

へ　200万円超の海外送金等を行う場合は、事前にその内容を記載した書類を国税庁に提出していること

５)情報公開に関すること

次に掲げる書類を閲覧させること

イ　事業報告書等、役員名簿等及び定款等

ロ　役員報酬又は従業員給与の支給に関する規定

ハ　４)のホ～への規定により提出した書類

ニ　資金に関する事項、資産の譲渡等に関する事項、寄付金に関する事項を記載した書類

ホ　寄付金を充当する予定の事業の内容を記載した書類

６)不正行為等に関する要件

法令違反、不正の行為、公益に反する事実等がないこと

７)設立後の経過期間に関する要件

設立の日以降１年を越える期間が経過していること

８)所轄庁の証明に関する要件

所轄庁から法令等に違反する疑いがない旨の証明書を受けていること

以上のことは、当法人においてほぼ関係役員の並々ならぬご努力と会員のご理解とご協力によりクリアーしておりますが、今後さらに遺漏のないよう留意すべき事項でしょう。

５．「認定NPO法人」になるメリット

認定NPO法人になると、公益法人等が寄付を受けた時と同様に不特定多数の寄付者等は優遇処置が受けられ、寄付者からの寄付が受け入れ

易くなる大きなメリットがある(次項6.参照)

特定非営利活動推進法(NPO推進法)が平成10年12月に施行されてから、NPO法人は1万近く設立されているが、同法の一部改正(13年12月)により、認定を受けた「認定NPO法人」は10余法人と、東京国税局の担当官は説明する。

何故認定NPO法人の数が少ないのか、見方は色々でしょうが、日本に馴染まないパブリックサポートテストを導入し、公益の増進の尺度としたことに起因していると推測する。この導入は「NPO法人には公益法人と同様に税法上の特別処置を適用しようとする」法改正の趣旨に馴染まない。それ故NPO法人のうち僅か10余法人(約0.2%以下)のみが公益法人と同様とみなされて認定され、多くのNPO法人は税法上の優遇処置を受けられない現状にある。

さらに如何なことかと思われるのは、認定NPO法人に関する国税庁の説明である。同庁発行の手引きによると「認定NPOとは」NPO法人のうちその運営組織及び事業活動が適正であること並びに公益の増進に資することにつき一定の要件をみたしたものとして国税庁長官の認定を受けたものをいう。(処置法第66状の11の2③)。(注3)

NPO法人のうち、国税庁長官が①その運営組織及び事業活動が適正であり、②公益の増進に資すると認定した法人を認定NPO法人とした。

当法人のように唯一寄付を集める努力をしないNPO法人は①、②と認定しないと理解され、公示しないことになる。如何にも国税庁らしい定義の仕方であります。

(注3)認定NPO法人制度の手引き(改定版)
15年7月　国税庁　P.4

6.具体的な税制上の優遇処置(特別処置)

認定NPO法人は次の1)~4)の特別の優遇処置が受けられ、寄付する人(特に高額相続人等)または法人のサイドからは大変優遇され、寄付がよりし易くなります。

1)個人の寄付金

個人が認定NPO法人に寄付した場合には、特定寄付金とみなして寄付金控除の適用が認められる。

特定寄付金控除

その年中に支出した寄付金の額の合計から1万円を控除した金額をその年分の総所得金額等から控除できる。

特定寄付金－1万円＝寄付金控除額
(証明書の添附または提示等は省略)

2)法人の寄付金

会社等の法人が認定NPO法人に寄付した場合には、一般の寄付金に係る損金算入限度額とは別に、さらに同額の損金算入限度額が設けられ、二重に控除される。

損金算入限度額(普通法人の場合の算式)
(資本金×0.0025＋所得の金額×0.025)/2
(証明書の保存等は省略)

3)相続人等の寄付金の特例処置

相続または遺贈により財産を取得した者が、相続税の申告期限までに認定NPO法人に寄付した場合にはその寄付した財産の価格は相続または遺贈に係る相続税の課税価格の計算の基礎に原則として算入されない。つまり、認定NPO法人への寄付金は原則として相続税の課税の対象とはならない。という大きな特別の処置が受けられ、高額相続人等は高額の寄付をNPO法人にし易くなる。
(証明書の添付等は省略)

4)みなし寄付金制度の導入

この特別処置は、当法人が営利事業を行なっていないので直接関係する事項ではないので、国税庁の説明手引き(注4)を引用するに止める。

認定NPO法人については、公益法人と同様に、その収益事業に属する資産のうちからその収益事業以外の事業のために支出した金額をその収益事業に係る寄付金の額とみなす(みなし寄付金)とする寄付金制度が導入された。
併せて、寄付金の損金算入限度額は、所得金額の20%相当額に引き上げられた。

近き将来、当法人において何らかの収益事業を行う場合には適用される。(懇親会等で一部会員の方から収益事業をやってはどうかとの意見は聞き及んでいます。具体案ではありません)

(注4)前掲　認定NPO法人制度の手引き(改定版)P.3

7．結　び

今後、当NPO法人が不特定多数の人及び一部会員の方々から、いつでも前記の寄付金を受けるためには、次のことが必要でしょう。

1）当法人が寄付を受ける事に関し会員のご理解とご協力を得る。

2）寄付金募集の目的(複数)と募集に関する事項、その使途を明確に成分化する。

3）会員以外の不特定多数の方々から寄付金を受けるための具体的募集の方法

4）経理上の処理を整備する。（前記パブリックサポートの7つの要件を整備する。）

5）会の管理運営に際し常に「認定NPO法人の８つの認定要件」に留意する。

（以上）

§図書案内§

年金・月21万円の海外2人暮らし
ハワイ・パース・コタキナバル・バリ
立道和子著
文春ネスコ発行　1,500円
会員の立道和子さんの海外楽園探し最後の決定版として、便利な情報を一挙公開。

ロングステイ・スタイル
悠々パース暮らし
千葉千枝子著
綜合ユニコム発行 1,800円
会員の鈴木剛さんのパース滞在記と「南国暮らしの会」が紹介されています。

「5周年記念行事実行委員会」委員募集の件

総務担当理事

当南国暮らしの会は平成11年9月東京都から「特定非営利活動法人(NPO法人)南国暮らしの会」としての認証を受け、同年11月に法務局に登記を完了しました。当会はその後着実に会員数を伸ばし、現在は460名を超し、今年、東北および北海道に新支部が開設されたことにより、地域的にもほぼ全国規模となりました。

そこで来年(平成16年)当会がNPO法人として満5年を迎えることを記念して、平成16年11月3日に何らかの「5周年記念行事」を行ないたいという話が10月の企画委員会で持ち上がり、2回の理事会を経て、会報で委員を公募し「5周年記念行事実行委員会」を立ち上げ、その具体的行事内容および財源対策などを十分審議していただいて、理事会に諮っていただくことになりました。

先の企画委員会では記念行事の内容として例えば、数十ページの5年誌の発行や記念講演会およびパーティーの開催等の案が出ました。また財源としては一般寄付を募るとか記念誌に広告を募る等の案が出ました。

当会には、現役時代まことに多方面で活躍された方々が居られます。本記事をご覧になって、このような企画業務に従事された経験をお持ちの方、またご経験はなくてもこのような企画作業を複数の方々と時間をかけて練り上げていくことに興味をお持ちの方は、是非総務担当菊地(電話:047-463-5183又はメーリングリストの菊地功まで)までご応募下さい。

数名の会員の方に委員をお願いし、委員長を互選していただいて、実行委員会を立ち上げていただきたいたいと考えておりますので、ふるってご応募下さい。

自 己 責 任 ★ 納 得 の 上 ★ 自 己 決 定

支部・部会伝達版

関西支部

支部長 No.12 大橋 績

関西支部、秋の定例会開催しました。
10月26日(日)、会場は初めての芦屋市民センターで46名の御参加者で実施しました。
出し物はチェンマイとペナン特集です。

チェンマイの講師は阿部 功氏(80)で初めての内容ですので入門編として「チェンマイをベースに海とメコンを楽しむ」と言う演題で画像と共にして頂きました。

ペナンの講師は吉田夫妻 (588) に8月に1ヶ月間のロングステイ体験談を画像で説明して頂きました。
共に人気の候補地ですので沢山の参加者で開催しました。

今回は新入会者や様子を見たいと会員以外の方の参加も有りました。又関西地区以外からは三重、広島からも参加して頂きました。
会合後はセンター内のレストランを貸切、立食式方式で情報交換会をしました。

新体制での順調な開催と考えていますが、皆様の御提案を活かしながら有意義な支部の勉強会と交流会を目指しますのでこれからも御提案下さいます様お願いします。

定例会

関西支部ミニ会合 伊沢豊様を迎えて

副支部長 No.51 森川 清

2003年11月29日 (土) 午後2時～4時
於、芦屋市民センター内　グリル業平
13名　参集
“チェンマイに暮らして”

伊沢様の豊富な体験談に諸氏感嘆しておられました。質問も活発、有意義な一時でした。チェンマイ ファンが増えてことと思います。尚、氏は明30日チェンマイにお帰りになるとのこと、お忙しい中有り難うございました。

当支部としまして、今後もこのような有意義な会合を持ちたいと思います。当支部会計、
吉田氏(588)に此の会合の立案、会合の全てを運営して頂きました。厚く御礼申し上げます。
又、副理事 酒匂氏に大きな援助を頂きました。
感謝申し上げます。

東海支部

支部長 No.487 横井 保夫

東海支部定例会は会場を名古屋中小企業センターにて10月12日(日)13:00-16:45　総計34名

(内見学者2名)の参加者を持って賑やかに行はれました。会場が今回初めて名古屋中小企業センターになった事で一部の皆様に混乱を与えてしまったことをお詫び申し上げます。

次回1月11日(日)の定例会は愛知県青年会館にて13時より行います。また11月と12月のサロン会は追ってご案内申し上げます。サロン会何か良いテーマありませんか？ご希望を募ります。
(タイ語をもっとやりたいとの声もありますが、タイ語ばかりではなく他の何かをやりたい方にご迷惑をおかけしても申し訳ありませんので)
今回の定例会は

(1) ブルガリヤに3ヶ月体験ステイされた南ダン吉こと高橋昭氏のパネルインジェクターによる写真を使っての報告。
(2) ガイヤの夜明け (8月12日テレビ愛知) ビデオ投影。チェンマイとペナンのロングステイの良い事ばかりが目立ったが実際は夢のように良い事ばかりではなく、車優先とか無茶苦茶な交通マナーとか頻度の多い停電断水など気をつけるべきことも多いことも語られるべきではなかったかとの指摘があ

った。

(3) 金融資産の海外運用に付いての話し合い。
活発な意見交換がありましたが、決め手は結局は為替変動に翻弄される性格の物ゆえ個人の OWN RISKで複数の外貨に分けて預貯金なり投資するしかないのでは･･･。

(4) ペナン支部長代理 石原彰太郎氏がたまたま名古屋にご滞在中で、今回の東海支部例会に御出席されました。ペナンはチェンマイに次ぐロングステイ候補地でチェンマイにはない魅力例えば、コンドミニアムは広くて安い、交通の要所でペナンを基点に世界各地に安く行きやすい、海があるので海産物が豊富などなど･･･のお話があり質疑応答された。

今回の懇親会は名古屋笹島近くのアシアンキッチンで25名の参加者で楽しく話が弾みました。サモアの酋長の娘を奥方にしとめた鈴木様について一度サモアやトンガに行こうとのグループが出来たようです？？？。
今回ビデオやブルガリヤの写真をプロジェクターでうつしていただいた笠井様、アシアンキッチンをご手配いただいた山田様有難うございました。

東北支部

支部長 No. 218 和田　隆

10月25日(土)東北支部立ち上げ会を開催
場所:福島県郡山市「ホテルラフィーネ郡山」
出席者:会員８名･会員以外４名･池田徳三郎理事長計１３名
東北支部設立を決定、理事長が承認

支部役員

支部長	№218	和田隆(福島･会津若松)
副支部長	№498	氏家孝(宮城･仙台)
委員	№656	内田達朗(福島･郡山)
委員	№662	新澤進　(福島･郡山)
広報	№404	大宅清繁(青森･木造町)

会議の内容
自己紹介･支部役員の選出･活動計画･講演･懇談
活動計画
次回を仙台かその周辺で開催、担当は委員2名で当たる。
講演「フィリピン･タイを一人旅して」
理事長 池田徳三郎氏
「タイでのLS情報と中国雲南旅行記」
№498　氏家孝氏
懇親会
会議に引き続いて、懇親会を開催･参加者全員が参加。飲み放題の「地酒」で大いに盛り上がりました。

東北支部は、地域が広くそのうえ会員が少なく、支部立ち上げには多少の困難もありましたが、ともかく立ち上がりました。これも池田理事長はじめ宮嵜･酒匂副理事長のおかげと感謝申し上げます。支部を立ち上げたはいいが、活動がさっぱり行われないのでは、仕方がありませんので、これからは会員の不断の努力が必要であると考えます。これを機会に、支部会員が、会員募集･東京での「情報交換会」「サロン会」への出席など積極的に活動したいと考えます。地元紙が会議の内容を報道してくれたため、若干の問い合わせがありました。会員が増えれば活動も活発になりますので引き続き頑張りたいと思っています。

立ち上げ会の様子

医療介護調査委員会活動報告

担当理事 No. 442 平尾 守満

平成14年度、会の重要な厚生活動充実化の必要性から、「厚生部」を新設したものの、諸般の事情でその成果をあげるにいたりませんでした。平成15年度、会員のニーズの高い医療･介護問

題に絞って活動することとし、「医療介護調査委員会」を発足しました。下記のとおり活動報告いたします。

活動目標「海外暮らし便利帳—医療編」の冊子発行

海外の病院等で受診するときに、医者とのコミュニケーションに役立つ応答会話集

- 対象言語は、日本語⇔英語
- 携帯に便利な B5版サイズ
- 指さしで会話できるようにする
- 活字のサイズは、読みやすい大きさにする
- 添付資料—各国の医療機関(所在地、連絡方法等)情報—保険(国民健康保険を含む)と治療費関係資料

活動状況

強力な助っ人、医者の磯崎興志委員(会員No.586)のご指導のもとで、編集作業も順調に進んでいます。2月中には脱稿し、作業を終える予定です。来年度予算で発行し、会報春季号と同時配布いたします。

医療介護調査委員

磯崎興志(No. 586)　大野悦子(No. 434)
菊地範夫(No. 240)　小林康紀(No. 523)
佐藤サツキ(No. 342)　平澤信(No. 40)
藤本靖人(No. 110－オブザーバー)
平尾守満(No. 442－担当窓口)

お願い

ご意見、ご要望等ありましたら、窓口担当の平尾までお寄せください。

インターネット委員会より

担当理事 No. 101 高澤 弘晃

インターネット委員会にてメーリングリスト規約が出来上がりました。別項を参照ください。これを機会にメーリングリストを利用して益々会が発展することを願います。

又メーリングリストを登録していたが最近、全くメールが来なくなったおかしい調べて欲しいと思われる方はインターネット委員会規約の管理人に連絡ください、調査して回答いたします。

又メールアドレスは変更したが管理人に変更連絡を忘れていた場合も配信されません、同様に管理人に変更連絡願います。

南国暮らしの会メーリングリスト規約

「南国暮らしの会」の仲間作り、情報交換、いきがいの場としてEメールを利用し、会員相互が円滑で和気藹々に利用するためのEメール利用規約を設けます。

1. 申込方法

南国暮らしの会メーリングリスト登録希望者は以下の条件を満たすこととします。

① メーリングリスト登録者は南国暮らしの会会員、賛助会員、会友とします、但し会費未納者は登録資格がありません。

② 登録希望者は事前にウイルス対策を実施してください(ウイルスソフトの利用、或いはプロバイダーのウイルスチェック契約等)

③ 登録希望者は管理人にEメールにて会員番号、氏名、Eメールアドレスを書いて申し込みください。

2. 投稿方法

会員相互の情報交換の場であり日常会話で自由に投稿し、できるだけ多くの方にEメール発信を願います。

書き方は

① 自分の会員番号と名前を書き情報内容を記入ください。

② 文章は、簡潔に、楽しく会員の皆さんに情報提供願います。

③ 添付資料、写真等はあまり容量が大きくならない程度に願います。

Eメールを発信しますと、メーリングリスト登録者全員に配信されます。

④ Eメールのあて先は

nangoku@egroups.co.jp　です。

3. 投稿内容

- **近況情報、体験情報、仲間作り情報等をメーリングリスト登録者に発信願います。又質問等にも利用ください。**

メーリングリストを読まれた方は投稿者に意見、感想等の返事を願います。
折角、投稿しても何の返事もないのは寂しい限りです。

4. 遵守事項

・「南国暮らしの会」はボランテアの会です。
会としてふさわしい内容を維持する為以下の遵守事項を設けます。

① 個人の中傷、誹謗、批判等、他人のプライバシーに関する情報は禁止です。
（自分自身の近況報告は大いに歓迎です。しかし個人間同士のメール交換はできるだけ避けましょう、やむをえない場合は「私信」と書いて発信ください）

② 政治、宗教の話は禁止します。（但しその国の情報としての発信は可です）

③ 営利行為、宣伝行為は禁止します。（同じ情報の繰り返し等です）

④ 他人が不快と思われる内容等は禁止します。

⑤ 管理人は以上の条件或いは「南国暮らしの会」に不適切な内容と判断した場合、警告、勧告、登録抹消等の処置をさせていただきます。

5. 管理人はウイルス発生等緊急時に対象者を登録から一時的にはずし被害を最小限に食い止める処置を行います。回復時には再度登録致します。

1. 管理人はインターネット委員会の101高沢、80阿部、466古河が担当します。
アドレスの変更、廃止等は
高沢 takasawa66@hotomai.com
阿部 abeisao313@yahoo.co.jp
古河 fkawa3@yahoo.co.jp
に連絡下さい。

寄付金について

理事長 池田 徳三郎

平成15年度総会において、本法人の運営費について色々なご意見を頂き早速寄付行為を実行して頂きました。尚前項の「認定NPO法人」資格取得条件の関係からも寄付金の募集及びボランテアが必要で、まず寄付金に先鞭を付けて頂いた方々に深く感謝しております。今後は会報にこの寄付金コーナーを設けることに致しました。尚理事会に於いて寄付金関係は別会計にして、一般会計で放漫使用しないという事になりました。

（敬称略）

期日	会員No.	氏名	金額	備考
H15.	18	木村義光	¥15,000.－	
H15.	586	磯崎興志	¥500,000.－	
H15.11.29	24	酒匂愛子	¥3,000.－	(情報交換会謝礼を寄付)

東カリブ海クルージング参加者共通費
（南の会関係者）より。

期日	会員No.	氏名	金額
H15.11.20	18	木村義光・まゆみ	¥1,500.－
H15.11.20	24	酒匂景輝・愛子	¥1,500.－
H15.11.20	26	鈴木宣夫・千恵子	¥1,500.－
H15.11.20	35	西田忠正・庸子	¥1,500.－
H15.11.20	96	宮澤英光・幸子	¥1,500.－
H15.11.20	134	松岡且視・芳子	¥1,500.－
H15.11.20	163	宮寄哲郎	¥1,000.－
H15.11.20	281	村松幸子・真一	¥1,500.－
H15.11.20	434	大野悦子	¥1,000.－
H15.11.20	442	平尾守満	¥1,000.－
H15.11.20	465	橋本慧・勝子	¥1,500.－
H15.11.20	470	細田良子	¥1,000.－
H15.11.20	558	伊沢豊	¥1,000.－
H15.11.20	625	工藤俊一・キヨ子	¥1,500.－
H15.11.20	友人	米井敏代・同伴者	¥1,500.－
H15.11.20	友人	田森舞子・三倉美帆	¥1,500.－
H15.11.20	友人	福田麻美・河野和代	¥1,500.－

会報委員より

窓口〔皆様の情報をお寄せ下さい。〕

小沢　公子　☎ 03-3949-2436
Eメール　g-ozawa@dab.hi-ho.ne.jp

細田　良子　☎ 045-832-5615
Eメール　r-hosoda@jb3.so-net.ne.jp

龍野　宏　☎ 048-71-4929
Eメール　hiro.tatsuno@nifty.ne.jp

平尾　守満　☎ 0426-26-3665
Eメール　hirao.morimitsu@nifty.com

平成１６年度継続会員申込み受付

恒例の年度替わり継続会員の募集時期になりました。別添の郵便振替用紙にてお振り込み下さい。本会の１６年度は４月１日からです。

会費は年度会費制で途中入会者に対して月割り計算は致しません。但し当年度発行の資料は全てお届けしております。

１５年度途中入会者で違和感をお持ちの方もいらっしゃるでしょうが、１６年度会員として継続される場合は新年度の会費を拠出して下さい。

・納入期日　：　平成１６年２月末日
・注意（1）：　期日までに会費未納者には１回催促し、それでも未入の場合は退会者として扱い、会員名簿から削除されます。(細則第９条６項)
・注意（2）：　１０月１日以降の復帰者は再入会金５千円が必要になります。(細則第９条８項)
・お願い　　：　郵便振替用紙の**通信欄に必ず会員Ｎｏ．**をご記入下さい。

次回「春季号」は４月発行です。
ご期待下さい。

記事の無断転載、複製を禁じます。

発行者　特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）
「南国暮らしの会」

理事長　池田　徳三郎
〒 140-0002 東京都品川区東品川 3-22-20-1208
ＴＥＬ/ＦＡＸ　03-3472-9954

NANGOKUNANGOKUNANGOKU

NANGOKUNANGOKUNANGOKU